

602. 92-N77-2ウ

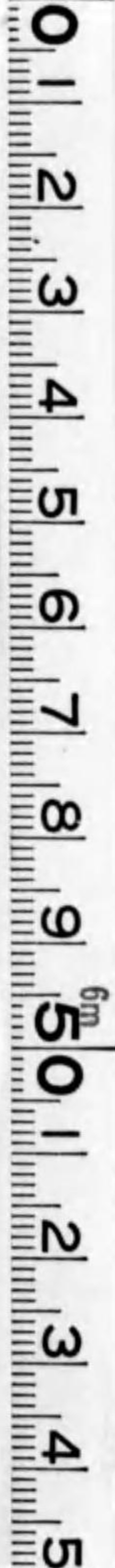


1200500747978



馬來·蘭印·濠洲

日本綿花株式會社編



始



馬來、蘭印、濠洲

日本綿花株式會社



○本書ニ現ハレタル數量單位

一噸	二、二四〇封度	一、〇一六町	二七〇・九五貫
一越	一、〇〇〇町	二、二〇四・六二封度	二六六・六貫
一擔	一三三封度	六〇・四町	一六貫
一平方哩	六四〇英反	二五九陌	二六一町步
一平方杆	一〇〇ヘクタール	二四七・一英反	一〇〇・八町步
一陌	一〇・〇〇〇平方米	二・四七英反	一・〇〇八町步
一英反	四、八四〇平方碼	〇・四陌	四・〇八反
一ブツセル	八ガロン	三六・三七立	二・〇一五斗
一ガロン	四クオート	四・五五立	二・五二升
一英磅	戰前約拾七圓		
一盾	戰前約二・四圓	現在一圓ニ換算	
一比	戰前約二圓	現在一圓ニ換算	

602.92
N77
2



昭和十七年三月

本書ハ執務上ノ参考資料トシテ謄寫ニ代ヘ印刷ニ附シタ
ルモノナリ

日本綿花株式會社



933
S149



日本經濟叢書



目次

馬來概觀

第一 概況 三頁

一、地域、地勢及面積 三

二、人口及住民 三

三、英國ノ馬來領有略史ト其統治 四

第二 産業及資源 七

一、農 業 七

 コム、米、古々椰子、油椰子、鳳梨 七

二、鑛 産 三

 錫、鐵、其他 三

三、其他ノ産業 一五

 畜産、林産、水産

第三 馬來ノ貿易

- 一、馬來貿易ノ特異性……………一六頁
- 二、馬來ノ貿易額……………一七頁
- 三、馬來ノ對日貿易……………一九頁

第四 新嘉坡陥落ト馬來ノ經濟的地位

第五 昭南島ヲ中心トスル事業……………二二頁

第六 馬來ニ於ケル邦人企業……………二四頁

英領馬來ノ政治的區分及ビ資源略圖……………二六頁

蘭印ト其纖維資源

蘭領東印度……………二九頁

- 一、地 域……………三〇頁
- 二、山脈、平原ト高原……………三一頁
- 三、人 口……………三二頁
- 四、住 民……………三三頁

蘭印ノ纖維資源

蘭印ノ棉花……………四八頁

- 一、總 論……………四八頁
 - 二、蘭印在來棉種ノ紡績試驗成績……………四九頁
 - 三、棉花生産高ト植付面積……………五〇頁
 - 四、棉花輸出高……………五〇頁
 - 五、各地ニ於ケル棉花栽培ノ狀況……………五三頁
 - 六、結論—蘭印ハ棉花栽培ニ向クカ……………五八頁
- 蘭印ノ「カボツク」……………六二頁
- 一、カボツク……………六三頁
 - 二、カボツク纖維ノ長所、短所ト其用途……………六三頁
 - 三、カボツク栽培ト其植付面積……………六三頁
 - 四、カボツクノ生産高……………六四頁
 - 五、カボツクノ輸出高……………六四頁
 - 六、カボツクノ紡績纖維トシテノ價值……………六五頁

蘭印ノ「シザル」麻……………六六頁

一、シザルトカンタラ……………六六頁

二、シザルノ植付面積ト産額……………六七頁

三、シザル麻トカンタラ麻ノ輸出……………六七頁

蘭印ノ「ローゼル」麻……………六九頁

蘭印ノ「マニラ」麻……………七三頁

蘭印纖維資源地帯圖……………七六頁

濠洲ノ素描

概況……………七九頁

面積、人口、密度、人種分布……………七九頁

人口密度ト經濟機構、生産別……………八〇頁

地勢……………八二頁

地理的區分、氣候及雨量、産物……………八四頁

産業……………八四頁

貿易……………九三頁

一般貿易、對英、對日……………九三頁

濠洲ノ統計……………九五頁

オーストラリヤノ面積、人口、密度……………九五頁

オーストラリヤノ耕地面積……………九五頁

濠洲ノ人種……………九五頁

濠洲聯邦ノ面積ト人口……………九六頁

濠洲州別耕地面積……………九七頁

職業別人口表……………九八頁

濠洲ノ都市ト人口、附土人ノ分布……………九九頁

氣温、濕度、降雨量月別表……………一〇〇頁

家畜及家禽……………一〇〇頁

主要生産品産額……………一〇一頁

濠洲産業別生産額……………一〇一頁

濠洲主要農産物産額……………一〇二頁

濠洲重要農産物輸出狀況……………一〇三頁

濠洲小麦輸出額……………一〇三頁

濠洲貿易額……………一〇四頁

濠洲貿易主要品目……………一〇四頁

濠洲貿易主要國別表……………一〇五

日本對濠洲貿易額……………一〇六

英本國ノ對濠洲貿易……………一〇七

鐵道及自動車數……………一〇八

濠洲地圖、雨量、氣溫、一般資源分布……………一〇八

ニュージーランド一般資源分布圖……………一〇九

馬 來 概 觀

第一概況

一、地域、地勢及面積

英領馬來ハ印度支那半島ヨリ西南ニ伸ビタ馬來半島ノ南半部ヲ占メ、東ハ南支那海ニ面シ、北ハ泰國ニ境シ、西ト南ハマラツカ海峽ヲ隔テ、スマトラ島ニ對ス。

馬來半島ヲ縫ツテ南下シ來ル山脈ハ判然ト半島ノ中樞部ヲナス程連續セズ、南北ニ長イ切レ々々ノ幾ツカノ丘陵山脈ヲ構成シ其間ニ溪谷ガアル、中央部ノ「パハン」高原ガ最モ高地デアルガ、ソレデモ最高峰ハ二千米ヲ少シ越エル程度ノモノデアル。又細長イ半島ヨリ成ル地形ノ爲メ、河川ハ何レモ短クパハン高地ヲ北ヨリ東南ニ貫流スルパハン河ガ最大デアルガ、ソレトテモ三二〇千米ノ流長ヲ有スルニ過ギナイ。

一般ニ降雨量非常ニ多ク、絶ヘズ東北及西南ノ季節風ノ支配ヲ受ケルガ「スマトラ」ニ遮ラレテ乾季、雨季ガハツキリト現ハレナイ、併シ東海岸ハ冬期ノ東北風ヲマトモニ受ケ長期間強風ニ曝サレ又乾濕季ガ比較的明瞭デアル。總面積ハ一三六、二三六平方千米（五三、一九五平方哩）デ我ガ北海道、九州、四國ヲ合セタモノニ略々等シイ。

二、人口及住民

一九四〇年十二月卅一日現在ノ總人口ハ五、五〇四、〇九四人デ人種別ニスレバ

支那	人	約二、三六〇、〇〇〇人
馬來	人	約二、二九〇、〇〇〇人
印度	人	約七五〇、〇〇〇人
歐洲	人	約三一、〇〇〇人

トナツテキル。

茲ニ特記スベキハ以上ノ人口構成ハ「マレー」ノ經濟ニ特種性ヲ與ヘテキルコトデアル、即チ土着民（嚴格ニ云ヘバ本來スマトラ地方ヨリノ渡來民）タル「マレー」人ハ總人口ノ僅カ四一・五％程度ナルニ對シ、移民タル支那人（四二・八％）ト印度人（一三・六％）トガ併セテ五六・四％モ占メテキルコトハ、「マレー」人ガ經濟的ニハ近代の植民地ニハ參加シ得ズ、内陸地方ニ追込マレテ自給自足的經濟ヲ營ミ、之ニ對シ資本主義經濟ノ運行ニ必要ナル勞働力ニ對スル需要ガ、支那人及ビ印度人ニヨツテ充タサレテ居ルコトヲ示スモノデアル。

三、英國ノ馬來領有略史ト其統治

馬來ニ最初侵入セルハ葡萄牙人デアツテ西曆一五一一年早クモ當時ノマラツカ國ヲ從屬セシメ、一世紀以上此土地ヲ維持シタガ、一六四一年和蘭人ガ葡萄牙人ヲ逐ツテ之ヲ奪取シ、約一世紀半ニ亘ツテ之ヲ占據シテキタ。英國ガ此地方ニ觸手ヲ動カシタ嚆矢ハ一七八六年ベナン島ヲケデーノ酋長ヨリ僅少ノ年金ヲ以テ買收シ、馬來侵略ノ據點トシタノニ始マル。一八〇〇年更ニ對岸ノウエルスレーヲ占領シ、以テ「マラツカ」ヲ侵略シ、マラツカ、ベナン兩基地ヨリ英

國ノ馬來半島ヘノ勢力伸長ガ續ケラレタルガ、一八一九年スタムフォード・ラツフルス卿ノ炯眼ガジヨホール王ヨリ新嘉坡ヲ獲得、イギリス帝國ノ東洋經略ノ基地トシタノデアアル。

コレヨリ先、一時英國ニ奪ハレタル「マラツカ」ハ「ウイーン」條約ニヨツテ一八一六年和蘭ニ返還サレタガ、和蘭ハ新嘉坡建設ガ「マラツカ」貿易ノ障礙ニナルタメ強硬ナル抗議ヲ提出シタガ、遂ニ一八二四年妥協成リ、英國ハ「スマトラ」ノベンクレイン、パンカヨリ撤退シ、其ノ代リニ和蘭ハ馬來ヨリ完全ニ手ヲ引キ、茲ニ英國ノ馬來ニ於ケル霸權ガ確立シタ。

新嘉坡ハ爾來急速ナル發展ヲナシ、其ノ軍事上ノ價值モ愈々増大シ、馬來半島ノ中心タルノミナラス、印度以東全英帝國領ノ根幹基地トナツタ。

斯ク英國ノ霸權ノ確立ニ伴ヒ、半島内ノ多數ノ王侯國モ次々ニ英國ノ保護ヲ受クルニ至リ、一八九五年ニハ聯邦洲ガ結成サレ、又一九〇九年盤谷條約ニヨリ北部四州ヲ泰國ヨリ割讓セシメ、左ノ如キ現在ノ政治的區分ヲ構成スルニ至レリ。（附圖參照）

一、海峽植民地 本國ノ直轄植民地ニシテ、之ニ屬スルモノハ新嘉坡島、彼南（對岸ノ小地域「ウエルスレー」州ヲ含ム）マラツカ港、「チンディンス」（西岸）及「ラフアン」（北ボルネオノ一小島）

ニシテ馬來ノ政治、文化、經濟ノ中心トシテ全領域支配ノ基點ヲナス、新嘉坡島ノ面積約三、五〇〇平方杆（全馬來ノ約三％）人口約百四十二萬（全馬來ノ約二五・八％）ナリ。

二、聯邦州 一八九五年ノ聯邦條約ニヨリ英國ノ保護ノ下ニ聯邦ヲ構成セシモノニシテ、半島ノ西岸地方ヨリ中央部ノ

ペラ、セランゴール、ネグリスミラン、バハンノ四土王國ヨリ成リ首府ヲ「セランゴール」ノ「コーランボ」ニ置イテ居ル。

面積約七一、三〇〇平方杼（馬來總面積ノ約五三%）ニシテ、其約半分ハ「バハン」一州ガ占メ、人口ハ約二二〇萬（馬來總人口ノ約三九・九%）ナリ。

三、非聯邦州 聯邦ハ構成セズ、個々別々ニ英國ノ保護ヲ受ケテ居ルノデ非聯邦州ト呼バレテ居リ、左ノ五王國ナリ。

ジヨホール （南端部）

バリース （西北部）

ケダー （同）

ケランタン （東北部）

トレンガヌー （同）

面積ハ約六三、〇〇〇平方杼（馬來總面積ノ約四四%）人口ハ約一八九萬（總人口ノ約三四・三%）ナリ。次ニ海峽植民地ハ總督（直轄植民地統治ノ權限ヲ有シ司法、行政ノ諸機關ヲ總括ス）及之ヲ補佐スル參議會及ビ立

法議會ニヨリ統治サル、又軍ノ司令官ハ更ニマレー聯邦統監ヲ兼ヌ。

マレー聯邦州デハ最高統治者トシテ「サルタン」ヲ戴イテキルガ「サルタン」ハ條約ニヨリ「マレー」ノ宗教習慣ヲ除ク外一切ノ問題ニ付テイギリス人知事ノ指揮ニ從ツテキル。

非聯邦州ノ「サルタン」又ハ「ラジャ」モ同様イギリス人顧問ノ指揮ヲ仰グコトニナツテキル。

第二 産業及資源

一、農業

全マレーノ農地總面積ハ約五百萬英反ニシテ、投下資本總額ハ詳デナイガ大體總額十五億海峽弗（以下弗トハ海峽弗）ト謂ワレテキル。主ナ作物ハゴム、古々椰子、米、油椰子、鳳梨デコレニ次デタバオカ、檳椰子、デリス、コーヒ、茶、ガンビル、煙草、バナナ其他ノ果實、蔬菜類ガアリ、又特殊作物トシテ米以外ノ穀物、香料、產油作物、藥草、纖維植物等ガアル。

○主要作物ノ各地別植付面積（一九三七年末現在、單位英反）

海峽植民地	三三、五三七	米	六九、〇九〇	古々椰子	〇〇、〇〇〇	油椰子	一	鳳梨	五、七五〇
マレー聯邦	一、三三三、三三三	米	一、三三三、〇〇〇	古々椰子	〇〇七、〇〇〇	油椰子	三、五二〇	鳳梨	〇〇〇、三三三

馬來概觀

非 聯	一、三四四、五九八	四八五、三三〇	二八〇、六〇〇	三三、六四五	五七、五九一
合 計	三、五三三、〇七七	七、〇〇〇、〇〇〇	六、〇三三、〇〇〇	六八、九三五	七五、三四五

(イ) ゴム

「マレー」ノ「ゴム」栽培ハ西曆一八七七年ニ「ブラジル」ヨリ移植シタノニ初マル、此地方ノ高温多雨（年降雨量八〇乃至百吋）ト低廉ナル勞賃、交通ノ便利、合理的經營ニヨリ次第ニ發展シ最近ノ産額ハ

一九三七年	四六九、〇〇〇 噸
一九三八年	三七〇、八〇〇 噸
一九四〇年	四八一、九〇〇 噸

ニ上リ、世界生産高ノ四〇%内外ニ當ツテ居リ、之ニ對スル投資モ十二億弗（農業投資總額十五億弗ノ約八〇%）ニ上ル。

「ゴム」園所有者ハ歐米人七四%、支那人一四%、印度人五%、其他（邦人ヲ含ム）四%デ「ゴム」生産高ノ殆

米 國	一九三九年	一九三八年
英 國	一九六、二〇四	一〇八、八四三
佛 國	四三、四五三	四七、七六七
日 本	二九、九六三	三四、六三二
	二二、六三一	一七、四五一

シテ全部ハ輸出ニ向ケラレルガ、最近ノ輸出額ハ左ノ通り。（單位千海峽弗、一弗ハ約二圓）

カ ナ ダ	二〇、五七二	一一、五五三
伊 太 利	八、二〇九	一三、四八六
獨 逸	二、四四一	一一、二三六
其 他	三三、〇二二	二二、九四五
計	三五六、四九五	二六八、九一四

因ニ本邦ノ生ゴム需要モ殆ンド全部南洋ヨリ輸入シテキルガ、支那事變以後消費ノ統制ニヨリ輸入量減少シ、昭和十四年ニハ四三、〇〇〇噸ダツタガ、其内馬來ヨリハ約一四、〇〇〇噸、其次ハ蘭印ヨリノ一二、〇〇〇噸デア

(ロ) 米

米ハ住民ノ常食物デアルガ、馬來ニ於ケル米ノ生産高ハ其消費量ノ四〇%ニシカ達セズ、最近ハ極力米作ヲ奨勵シタ結果、漸次收穫量ヲ増加シテキル。

一九三八—三九年ノ米作面積ハ約七十五萬英反、其産額ハ二億二千七百萬「ガント」(約三十四萬一千噸—六六五「ガント」ヲ米一噸ト計算)ヲ示シ水稻ト陸稻トニ分ケレバ

水 稻	面積(英反)	産額(ガント)	一英反當り收量
陸 稻	七〇四、二九〇	二一八、六〇四、〇〇〇	三一三ガント
計	四八、八五〇	八、八〇五、〇〇〇	一八〇ガント
	七五三、二四〇	二二七、四〇九、〇〇〇	

馬來概觀

ニシテ主産地ハ北方ノ非聯邦州タル「ケダー」州ト「ケラントン」州デア
ル。米ノ輸入額ハ

一九三八年	六十一萬二千噸
一九三九年	六十五萬八千噸 (約五千四百萬弗)

ニ上リ輸入先及百分比ハ左ノ通り

泰 國	一九三九年	六五%
佛 印	一九三八年	六一%
其 他		二八%
		五%
		三%
		二%

(ハ) 古々椰子

ゴム、錫ト共ニ馬來ノ三大産物(R・T・C)ノ一ト謂ハレテキルガ、ゴムニ較ベテ著シク見劣リシ、一九三七年ノ栽培面積ハゴムノ三百三十萬英反ニ對シ古々椰子ハ六十萬英反ニ過ギズ、馬來人、印度人、華僑等ノ所有スル小農園ヨリ成ル。栽培地ハ聯邦州(特ニセラングール及ビベラ)ニ最モ多ク、非聯邦州(特ニジョホール及ビケラントン)之ニ次ギ、海峡植民地最モ少イ。マレーノ古々椰子ハ他地方ヨリモ大キイノガ特徴デ、一噸ノコブラ(胚乳ヲ乾燥シタモノ)ヲ製スルノニ普通六千乃至八千個ノ椰子ノ實ヲ要スルガ、此地方ノモノデハ約四千個デ足リル

ト云フ。

古々椰子ハ土着民ノ食料、飲料、燃料、建築材料トナル有用樹デ土着民ノ使用ニ供セラル、ガ故ニ生産額ヲ詳細ニ知ルコトハ困難ダガ、古々椰子生産物ノ輸出量ハ一九三七年ニハ

コ	七萬五千六百噸	價格約九百二十萬弗
ブ	三萬九千七百噸	七、六百六十噸
ラ	一、萬五千噸	六十二噸

ニ上リ「コブラ」ノ輸出先ハ英國ヲ筆頭ニ獨逸、和蘭之ニ次グ。

(ニ) 油椰子 (オイルバーム)

一九一七年ニセラングール州デ栽培ガ始メラレ、約十年ヲ經タ一九二六年以後大規模ニ栽培行ハレタ比較的新シイ栽培業デアルガ、一九三七年ノ植付總面積ハ六萬九千英反ニ上リ、マレー聯邦州及ジョホール州ニ盛ンナリ。

油椰子ノ果肉ヲ壓搾シテ採ツタノガ「バーム」油デ用途ハ主ニ石鹼材料トナリ、又蠟燭、車輛潤滑油、人工乳酪其ノ他ノ工業原料トモナル、又油椰子ノ果核(核子)モ油(カーネル油)ノ原料トナル。

一九三七年ノ「バーム」油及ビ果核ノ生産高及輸出高ハ左ノ通り、

「バーム」油	生産高	輸出
核	四五、六六噸	四三、七四二噸
	七、九〇六	七、四二九

馬來概觀

(ホ) 鳳梨 (パイナップル)

新嘉坡島、ジヨホール、セラシゴール地方ニ栽培サレ、總面積ハ約七萬五千英反ヲ占ム。

マレー産ノ鳳梨ノ品質ハ二流品デ大衆的消費ノ對象トナツテキルガ、「ハワイ」ニ次グ世界第二ノ罐詰生産地デアリ、其輸出高ハ左ノ通り

一九三七年	八〇、五〇四噸	價格約八百八十二萬弗
一九三八年	七三、一六九噸	七百二十六噸

其ノ七〇乃至八〇%ハ英本國向ニシテカナダ、濠洲、新蘭土、米國ヘモ輸出サル。

二、鑛 産

馬來ハ錫ノ世界第一ノ産地トシテ有名デアリ、之ニ次グモノハ鐵、其他ニ僅少ノ金、石炭、タンクステン等モアル。

(イ) 錫

馬來ニ於ケル錫鑛及精鍊錫ノ生産ハ一八八三年以來常ニ世界ノ主位ヲ占メ、其産額ハ

一九三六年	六六、八〇六噸	(世界總産額ノ約三七%)
一九三七年	七七、五四二噸	(三七%)
一九三八年	四四、二四七噸	(三〇%)
一九三九年	五五、〇一九噸	(三五%)

ヲ示シペラー州ヲ筆頭ニ「セラシゴール」「ネグリスマラン」「バハン」等之ニ次ギ、一九三九年末ノ錫採鑛

面積ハ全部デ十八萬八千英反デアル。

馬來ノ錫業ハ單ニ錫鑛ノ採掘ニ於テ卓越スルノミナラズ、其精鍊業ニ於テモ極メテ進歩シ居リ、單ニ馬來内産錫ノ精鍊ノミナラズ蘭印、泰、佛印、ビルマ、其他ノ原鑛ヲ精鍊ノ上再輸出シテキル。

馬來錫輸出先 (單位千弗)

國 名	一九三九年	一九三八年
米 國	一〇九、五五六	五二、五九九
英 國	一、〇六七	六、四六二
佛 國	一〇、六三七	六、二二七
伊 太 利	二、三六四	三、八六六
印 度	六、五八五	四、一七九
其 他 (日本ヲ含ム)	二八、一一一	二二、〇〇六
計	一五八、三二〇	九六、三三九

米國ハ世界第一ノ錫消費國ニシテ、一九三九年ノ消費量ハ七萬六百噸ニ上リ、世界消費量ノ約四二%ヲ消費シテキルガ、米國ノ錫輸入量ノ中マレー錫ハ一九三八年ニハ七三・八%、一九三九年ニハ六六・七%ヲ占メ居リ、一九四〇年以來ハ更ニマレー錫ノ買付ニ狂奔シ居タルヲ以テ、一九四〇年以降ハ數量詳カナラザルモ、ヨリ多量ノマレー錫ノ米國輸出ガ行ハレタモノト推測セラル。

因ニ本邦ノ錫需要ハ昭和十一年ニハ六千六百噸ニシテ其内國內生産千九百噸、輸入四千七百噸(内約六〇%ハ

マレーヨリノ輸入)デ自給率僅カニ三〇%程度ニ過ギズ、其後ノ統計明カナラザルモ軍需上諸種ノ合金用ニ必要ナルモノ故、其後ノ需要ハ非常ニ増大セルモノト思ハル。

(ロ) 鐵

馬來ニ於ケル鐵生産ハ殆ンド日本人ノ獨占下ニアリ、投下資本約二千萬圓ニ上リ其全産額ガ本邦へ輸入サレル。

「マレー」ノ鐵鑛ハ極メテ良質ノ赤鐵鑛デ(含有度ハ六五%前後)埋藏量二億噸ト謂ハレルニモ拘ハラズ、此地方ニハ製鐵ニ必要ナル石炭ノ産出ナキタメ製鐵業興ラズ、遠隔ナル歐米市場へノ鐵鑛輸出ハ歐米各國ニ鐵鑛ガ産出サレル限リ、採算不引合ナル爲メ今日迄歐米人ノ手ニ依ツテ鐵鑛ノ開發ハ行ハレナカッタ。邦人經營ノ鐵鑛山左ノ如シ。

鑛山名	所在州	埋藏量	採鑛開始	最近ノ年産	經營者
スリ・メダン	ジョホール	八百萬噸	一九二一年	五五萬噸	石原産業
エンダウ	ジョホール	千萬噸	一九三六々	一五萬噸	飯塚鐵鑛
ケンマン	トレンガヌ	五百萬噸	一九二六々	一〇萬噸	石原産業
ツンゲン	トレンガヌ	四千萬噸	一九三〇々	一〇〇萬噸	日本鑛業
テマンガ	ケランタン	至一億噸	一九三七々	不詳	南洋鐵鑛
ロンピン	バハン	六百七十萬噸	一九三八々發見	不詳	石原産業

(ハ) 其他

金ハ「バハン」州ニ在ル「ラウブ」金山ガ有名デ Raub Austrian Gold Mining Co. ノ經營ナリ。

「タングステン」ノ産額ハ一九三八年六百三十一噸デ支那、ビルマ、米國、葡萄牙ニ次ギ世界第五位ヲ占ム。

三、其他ノ産業

(イ) 畜産

一九三八年ノ家畜數ハ

牛	三十一萬七千頭
水牛	二十九萬九千頭
羊	二十萬九千頭
山羊	三十萬一千頭
豚	百萬頭(推定)

ト謂ハレルガ、之丈ケデハ領内ノ需要ヲ充タスノニ不足デ年々多ク輸入サレ、食用トサレル水牛ハ泰國ヨリ、牛ハ南印度、泰國ヨリ、豚(マレー人ハ宗教上ヨリ豚ヲ食用ニ供セズ支那人専ラ之ヲ需要ス)ハ蘭印、泰、佛印ヨリ輸入サル。

(ロ) 林産

英領馬來ノ全面積ノ約五分ノ四ガ森林地帯デアルガ、雜多ナ種類ノ樹木ガ雜然ト繁茂シテ居ルノデ「チーク」

材ノ如キハ寧ロ乏シク、廣大ナ林野面積ヲ有シナガラ、尙多量ノ木材類ヲ輸入ニ仰イデ居ル現狀ナリ。

(ハ) 水 産

魚類ハ土着民ノ重要食料デアアルニモ拘ハラズ、大量漁獲ヲ目的トスル進歩的漁業經營サレズ、殊ニ東海岸デハ東北季節風ノタメ十一月乃至四月ノ間ハ出漁休止サレ、僅カニ西海岸ノミガ東北季節風ノマレー半島ニヨリ緩和サレ、又西南季節風ハスマトラ島ニヨツテ緩和サレル爲メ、年中漁業可能ノ状態ニアリ。

動力船ニヨル遠洋漁業ハ邦人(主ニ沖繩人)ノ獨占デ、新嘉坡ヲ本據トシテ蘭印、佛印ノ領海迄出漁シ、新嘉坡市場ノ半數近クノ魚類ノ供給ヲナス。

一九三六年ノ調査デハマレー漁天總數ハ二萬五千人、其内マレー人一萬四千、支那人九千七百、日本人千七百人、印度人三百五十人トナツテキル。

第三 馬來ノ貿易

一、馬來貿易ノ特異性

英國ガ馬來ノ領有以來百二十餘年、新嘉坡ヲ以テ東亞制壓ノ本據トナシ軍事的、政治的重要性ノ外ニ之ニ經濟的重要性ヲ附加スル爲ニ海峡植民地ヲシテ貿易ノ中心タラシメントシテ新嘉坡ヲ自由港トナシ其繁榮策ヲ計ツテ來タ丈ケニ

一九四〇年ノ輸出入額推算十九億六千萬弗トイフ巨額ニ上ツテ居ルガ、之ハ盛ナル仲繼貿易ニ負フ所多ク、從ツテ馬來ヨリノ輸出ニハ馬來生産量以上ノ輸出ト、馬來ニ生産セラレザルモノ、輸出、例ヘバ石油ノ如キモノガ加ハリ、其外品目別ノ貿易表ニハ重要品目ガ輸入ト輸出トノ兩方ニ表ハレルト言フ現象モ生ズル、例ヘバ「ゴム」ハ輸出、輸入双方ニ於テ第一位ヲ占メ、錫ハ輸出デハ第二位、輸入デハ第五位ヲ占メテキル等デアル。

從ツテ皇軍占據後ノ馬來貿易ノ經營ニ當ツテハ、英帝國ノ東亞ニ於ケル勢力崩壞後ノ馬來貿易事情ハ、必ズヤ非常ナル變化ヲ來スベキコトヲ念頭ニ置イテヤルコトガ必要ト思ハル。

二、馬來ノ貿易額 (單位百萬海峽弗)

年 次	輸 出	輸 入	貿 易 尻
一九三五年	五七五	四七九	出超 九六
三六年	六三九	五一三	〃 一二六
三七年	九〇三	六九二	〃 二一一
三八年	五八〇	五五五	〃 二二五
三九年	七三八	六二四	〃 一一四
四〇年	一一二七	八三三	〃 二九四

馬來ノ貿易尻ハ以前ハ概シテ入超デアツタガ、一九二四年ヨリ出超ノ兆現ハレ、一九三三年以來ハ例外ナク出超トナリ、第二次大戰以來ハ米國ノゴム、錫ノ大量買付デ一九四〇年以降ハ其趨勢顯著トナツテキル、一九三八年ノ品目別輸出入額(單位百萬弗)及比率左ノ如シ。

輸出品目	金額	比率
○輸出品目	金額	比率
ハラゴム	七四・三	一三・六%
鐵製品、機械、自動車	六六・五	一一・二
石油及燈油	六一・九	一一・三
米	五三・八	九・八
錫	三〇・一	五・五
鑛	二一・五	四・〇
煙草	一七・九	三・三
綿製品以外纖維製品	一二・七	二・三
化學藥品類	一〇・二	一・九
其他計	五五・〇	一〇・〇
其他計	五七九・六	一〇〇・〇
鐵	七・四	一・三
アレカナツト	一〇・四	一・八
椰子油	一二・三	二・二
ゴブラ	一二・五	二・二
錫	九六・三	一六・九
ゴム類	二七二・七	四七・九%
其他計	七・三	一・三
其他計	五七九・六	一〇〇・〇

次ニ馬來ノ輸出入ヲ國別ニ見ルト左ノ通り。(單位百萬弗)

國別	輸出	比率	輸入	比率
英國	八二・一	一四・二%	一〇二・三	一八・四%
印度	二一・三	三・七	一六・三	二・九
暹羅	二六・七	四・六	一三・一	二・四
蘭洲	四〇・九	七・一	一五二・二	二七・四
米國	一七二・八	二九・八	一七・一	三・一
獨逸	一八・二	三・一	一一・二	三・〇
佛國	四三・五	七・五	三・一	〇・六
伊太利	一八・六	三・二	二・〇	〇・四
日本	五三・九	九・三	一二・四	二・三
其他計	五七九・六	一〇〇・〇	五五五・〇	一〇〇・〇

三、馬來ノ對日貿易

馬來ノ對日貿易ハ第一次大戰ヲ契機トシテ本格的トナツタガ、未ダ飛躍的發展トハ云ヒ得ズ十數年ヲ經過シテ一九三三年頃ヨリ我商品ノ世界的發展ニ伴ヒ、馬來デモ華僑ノ排日ニモ拘ラズ、邦品ノ著シイ進出ガ始マリ一九三二年馬來總輸入ノ四・四%ヲ占メタ邦品ハ翌年ヨリ七・四%、八%トイフ風ニ向上シタ、殊ニ紡績製品ニ於テハ曾テ英國ノ獨占的市場タリシ馬來ニ於テ日英ノ地位ハ逆轉スルニ至ツタ。

英國ハ之ニ對應スル爲メ一九三四年五月ヨリ織物輸入割當制ヲ發布シ自國品擁護ヲ圖ツタ。斯クテ一九三四年一億

四千四百萬碼ノ實績ガアツタ我綿製品ハ一九三六年二千七百餘萬碼ニ割當ラレ、又此頃ヨリ泰ト我國トノ直接貿易ノ機運促進サレ、海峽植民地經由ノ割合ガ少クナツタ事ト、從來全ク貿易ニ於テハ海峽植民地ノ自由貿易ノ領域中ニ包含セラレテ居タ奧地馬來諸州ガ一九三五年ヨリ輸入關稅制ヲ施行スル事ニナツタコト、ニ依ツテ、邦品ノ馬來進出ハ阻止セラル、ニ至リ、一九三五年馬來輸入ノ六・三%、三六年六・四%、三七年五・八%トナリ、更ニ一九三八年ヨリハ事變ニヨル華僑排日ノ影響ヲ受ケテ激減シ僅カニ二・二%三九年ニハ一・九%トナツタ。

然ルニ一方馬來ノ對日輸出ヲ見ルニ、日本ノ戰時體制施行ニヨル必要資材タルゴム、錫、鐵礦ノ輸出増加ヲ見タ上、石油モ一部海峽植民地經由ニテ買取ラレタルヲ以テ、最近數年ハ引續キ馬來總輸出ノ九%内外ヲ占メ、從ツテ馬來ノ對日貿易ハ近年常ニ出超ニシテ而モ其開キハ擴大ノ一途ヲ辿リ居レリ、即チ左表ノ通り。(單位百萬弗)

年次	輸入	馬來總輸入ニ對スル比率	輸出	馬來總輸出ニ對スル比率
一九三五年	三〇・四	六%	五二・七	九%
三六年	三二・六	六	四八・二	八
三七年	四〇・五	六	六〇・七	七
三八年	一一・四	二	五二・九	九
三九年	一一・〇	二	五八・〇	八

次ニ本邦ノ馬來ヘノ輸出及ビ馬來ヨリノ輸入ヲ品目別ニ見レバ左ノ通り。(單位千圓)

輸出品目	一九三九年	一九三八年
布帛及同製品	一一、四四八	一一、七五五
金屬製品	六二四	五四三
機械類、車、鏡類	九六一	一、一二四
雜品	一、〇六三	九三六
其他合計	二二、四三〇	二二、八八七
輸入品目	一九三九年	一九三八年
ゴム	三九、一七六	三五、八八三
錫、鐵類	七一、七四八	五九、三一一
其他合計	一一五、八三九	一〇〇、九六五

第四 新嘉坡陷落ト馬來ノ經濟的地位

金城鐵壁ト英國ガ誇稱シタ新嘉坡モ落チ過去百二十餘年ニ亘ル其ノ東亞制壓ノ最大據點ヲ失フニ至ツタ。英國ノ東亞霸權ニ終止符ヲ打タレタ今日、此ノ霸權ヲ背景トシタ馬來ノ政治上、經濟上ノ價值モ非常ナ變化ヲ來サルヲ得ナクナツタ。

元來新嘉坡ノ經濟上ノ重要性ハ上述ノ如ク一ハ自由港トシテ國際商業上ノ重要地位ヲ占メテ居タコト、他ハ馬來ノ奧地資源ノ輸出港トシテデアツタガ、先ヅ第一ノ國際商業上ノ地位ニ付テハ、從來新嘉坡ニ出入スル貨物ノ内、主要

ナモノハ「ゴム」錫デアリ之等ハ單ニ馬來ニ産スルモノニ限ラズ其外ニ蘭印、泰、佛印ノ生産物ヲモ合セテ新嘉坡ニ集中サレ仕譯、荷造サレテ消費地ニ仕向ケラレテ居タ爲メニ、一大集散市場ヲ形成シテ居タモノデアル。而シテ之等集散貨物ノ大部分ハ米英ニ仕向ケラレ、現ニ一九三九年ニ米國ノ消費シタ「ゴム」ノ六〇%、錫ノ七四%ハ此地ヨリ積出サレタモノデアリ、更ニ英國ハ米國程「マレー」ノ「ゴム」錫ニ依存シテ居ラナカツタガ、此兩物資ヲ賣ツテ莫大ノ米弗資金ヲ稼イデ居タモノデ事實一九三七年ニ新嘉坡ニ寄港シタ船舶ハ一萬一千四百餘隻、約三千萬噸ヲ算ヘ其内七〇%近クハ英國船デアツタ（日本ハ約一七%）コトカラ觀テモ新嘉坡ヲ中心トスル經濟的紐帶ハ多分ニ米英の性格ヲ持ツテ居タモノダガ、今ヤ一朝ニシテ大東亞の性格ニ置キ替ヘラレル事ニナツタ。之ハ新嘉坡ノ經濟的重要性ヲ全然喪失スルモノデ無イトシテモ、相當ノ變革ヲ免レナイコトハ確實デアルガ、差シ當ツテ考ヘラレルコトハ

(イ) 近キ將來軍政下ノ昭南島デハ戰爭後ノ秩序回復、軍略上ノ諸設備ノ建設ガ先行サルベク又運輸交通上ノ制限多カルベク差當リハ國際貿易ハ從來ノ如ク自由ニ行ハレ得ナイダラウカラ、物資ノ交流トシテハ馬來ヘノ輸入ハ馬來住民ノ生活必需品ノ供給、軍需品ノ確保ガ主ナモノトナリ、馬來カラノ輸出ハ内地ノ必要トスル軍需原料ヲ持ツテ來ル程度ナランカト思ハル。

(ロ) 其レ以後ノ見透

今後ノ皇軍ノ進出ガ那邊迄ニ及ブカニヨツテ、非常ニ違ツテ來ル故、今ノ所適確ナル判斷ハ至難ダガ、今迄ノ新嘉坡ノ國際貿易ハ「ヒンターランド」タル馬來ノ「ゴム」錫ニ偏寄セル物資ヲ背景トシテ、米英ヲ主タル顧客トシテ

居ツタノダカラ、大東亞經濟圈ノ確立ハ同時ニ他經濟圈ノ創始、即チ米英ノ如キハ「ゴム」錫ノ様ナ重要物資ハ之ヲ自己圈内ニテ自給策ヲ講ズベキコト必然ノ勢トナルベキヲ以テ、從來新嘉坡ノ繁榮ノ基デアツタ自由港トシテノ仲繼貿易ハ、其地理的優位ヨリ考ヘテ全然ナクナル事ハ無イニシテモ、昭南島ニ於テ從來同様ノ隆昌ヲ期待スルコトハ至難カト思ハレル。

第二ノ昭南島ノ「ヒンターランド」タル馬來ノ物資モ「ゴム」錫等ニ片寄ツテ居ル丈ケニ、其ノ最大顧客タル米英ヲ失フコトニ依リ、其豐富ナル天然資源モ今迄通り輸出不可能トナリ過剩ヲ來スベク、歐洲市場ヘノ交通路回復シ獨逸、佛國、伊太利等ヘノ供給ガ再開サル、迄ハ馬來ノ經濟維持ニ相當ノ困難ナル問題ヲ惹起スベク或部分ノ「ゴム」椰子類ノ栽培ノ如キモ一時ハ米等ノ生活必需品ノ栽培ヘ轉換セザルヲ得ナクナルダラウ。

第五 昭南島ヲ中心トスル事業

以上ハ大體經濟的見地カラ觀タモノデアルガ他方ニ地政學的ノ觀點カラスレバ、日本ガ將來大東亞政策ヲ遂行スルニ當ツテハ昭南島ハ東ハ日本ヲ含ム東亞、西ニハビルマ、印度、南ニハ濠洲ヲ控ヘタ最重要ノ軍事、政治、及ビ經濟ノ中樞地タルノ位置ヲ占ムルヲ以テ、此意味ヨリ遠キ將來ニ亘ル昭南島繁榮ノ維持發展ヲ計ルベキコトハ必然デアリ、從ツテ上述ノ如キ貿易ノ縮少ヲ補フ爲メ昭南島ヲ中心トスル周邊ノ地帯ニ産業興隆ノ施政ヲ期待スベク之ニハ我資本

及技術ヲ以テスル

- (イ) 豊富ナル原料ヲ利用スルゴム加工業
 - (ロ) 馬來及其周邊ノ錫ノ精鍊業(昭南島ノ既設精鍊所ヲ含ム)
 - (ハ) 椰子ヲ原料トスル製油業
 - (ニ) 埋藏量二億噸ニ達スル馬來鐵鑛ヲ原料トシ「スマトラ」産炭(埋藏量六億乃至七億噸ニ達シ最近ノ年産百八十萬噸ニ達ス)ヲ利用スル製鐵業
- 等有望ナラン。

第六 馬來ニ於ケル邦人企業

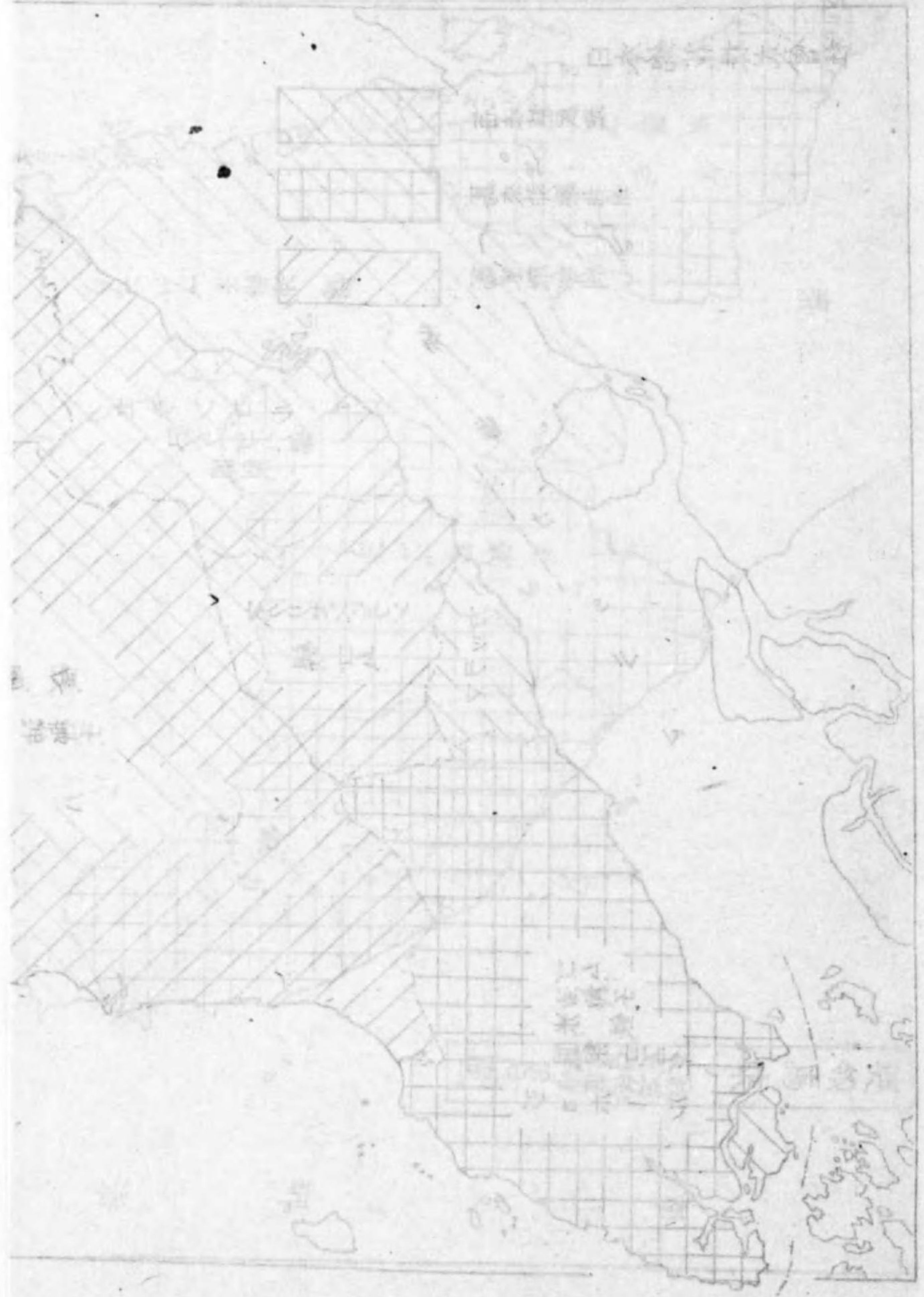
大東亞戰勃發前ニ於ケル馬來ニ於ケル主要邦人事業左ノ如シ。

一、栽培業

會社名	設立	公稱資本及 拂込資本	資本系統	事業地	事業
三五公司	明治三八年	{ 五〇〇萬圓 五〇〇萬圓 }	愛久澤系	ジョホール	{ ゴム古々椰子 鳳梨 }

二、鑛業

昭和護謨	昭和一二年	{ 一〇〇〇萬圓 六五四萬圓 }	明糖系	ジョホール	ゴム
南洋護謨	明治四四年	{ 五〇〇萬圓 三五〇萬圓 }	大合同銀行	ジョホール	ゴム
南洋護謨拓	大正五年	{ 二〇〇萬圓 一〇四〇萬圓 }	上田彌兵衛	ジョホール	ゴム
日沙商會	大正六年	{ 三〇〇萬圓 二〇〇萬圓 }	鈴木合名	ジョホール	ゴム
日産農林工業	昭和九年	{ 二〇六〇萬圓 一七四〇萬圓 }	日産系	ジョホール	ゴム、麻、椰子
熱帶産業	大正八年	{ 六五〇萬圓 五五二萬圓 }	三井系	ジョホール	ゴム
馬來護謨公司	大正二年	{ 四七〇萬圓 四七〇萬圓 }	日滿生命系	ネグリスマ ラン	{ ゴム其他 熱帶植木 }
石原産業海運	昭和九年	{ 五三〇萬圓 四二五〇萬圓 }	石原産業系	ジョホール	{ 鑛山、精鍊、 海運 }
石原産業公司		{ 三〇〇萬圓 三〇〇萬圓 }	石原産業系	スリメダン トレンガヌ ケママン	鐵、滿 錫、ポキサイト
飯塚鐵鑛	昭和一二年	{ 三七〇萬圓 三七〇萬圓 }	飯塚茂	ジョホール	鐵鑛採掘
南洋鐵鑛	昭和一〇年	{ 一〇〇〇萬圓 四〇〇〇萬圓 }	日本鋼管	ケラント	鐵鑛



三、貿易

日本 鐵業 昭和四年 {三六〇二萬圓 日本產業 トレンガヌ 鐵、滿俺

新嘉坡野村商店 大正一三年 一〇〇萬海峽弗 野村合名 新嘉坡 貿易

三井物產 新嘉坡

三菱商事 新嘉坡

四、銀行

華南銀行 大正八年 {二五〇萬圓 臺林熊銀微 新嘉坡

臺灣銀行 一七八萬圓 新嘉坡

正金銀行 新嘉坡

五、海運

日產汽船 昭和九年 {二六七〇萬圓 日本鐵業 ツンゲン 鐵鑛輸送

大阪商船 新嘉坡

日本郵船 新嘉坡

以上

昭和九年

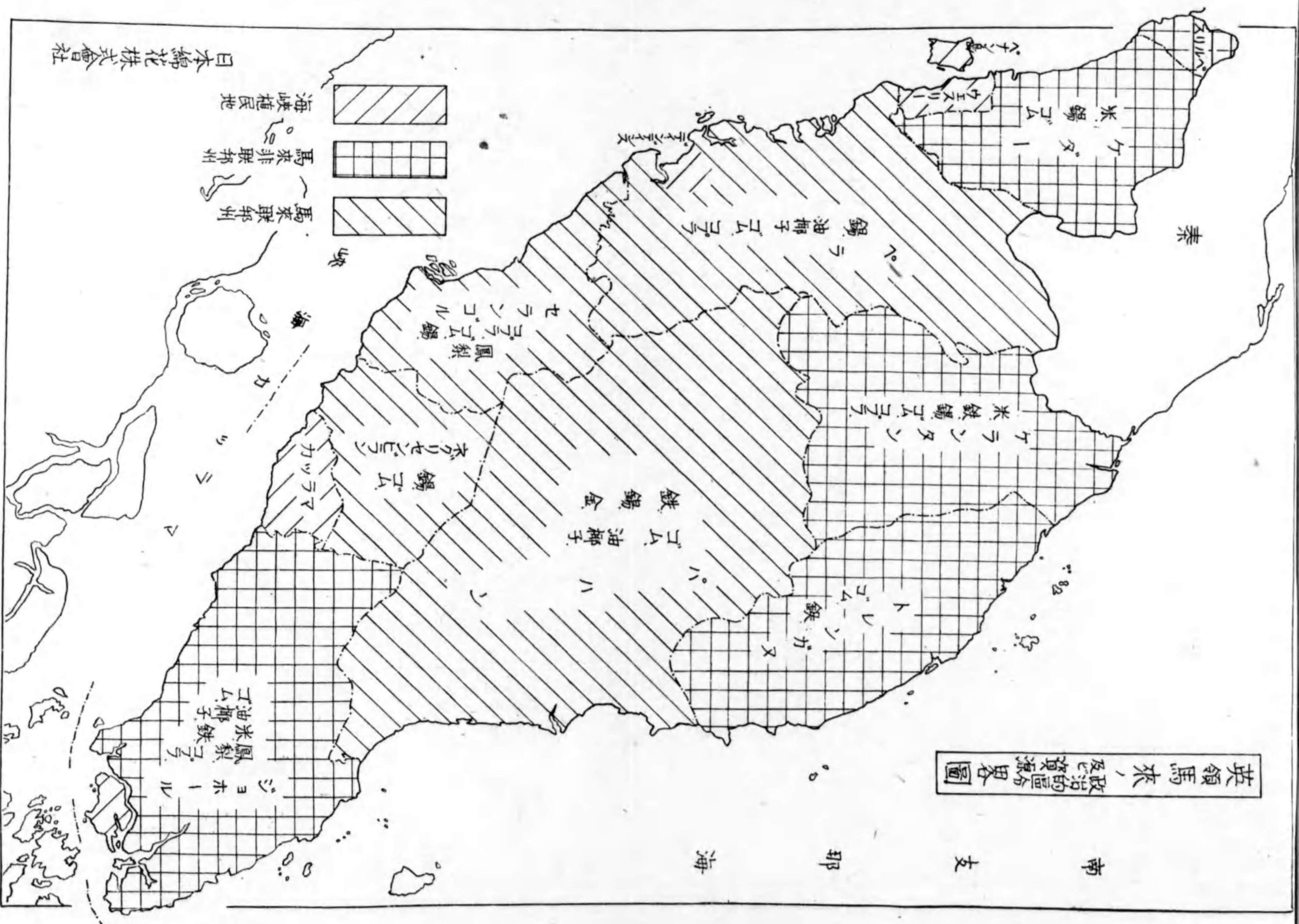
〔二六六七〇萬圓

日本鐵業

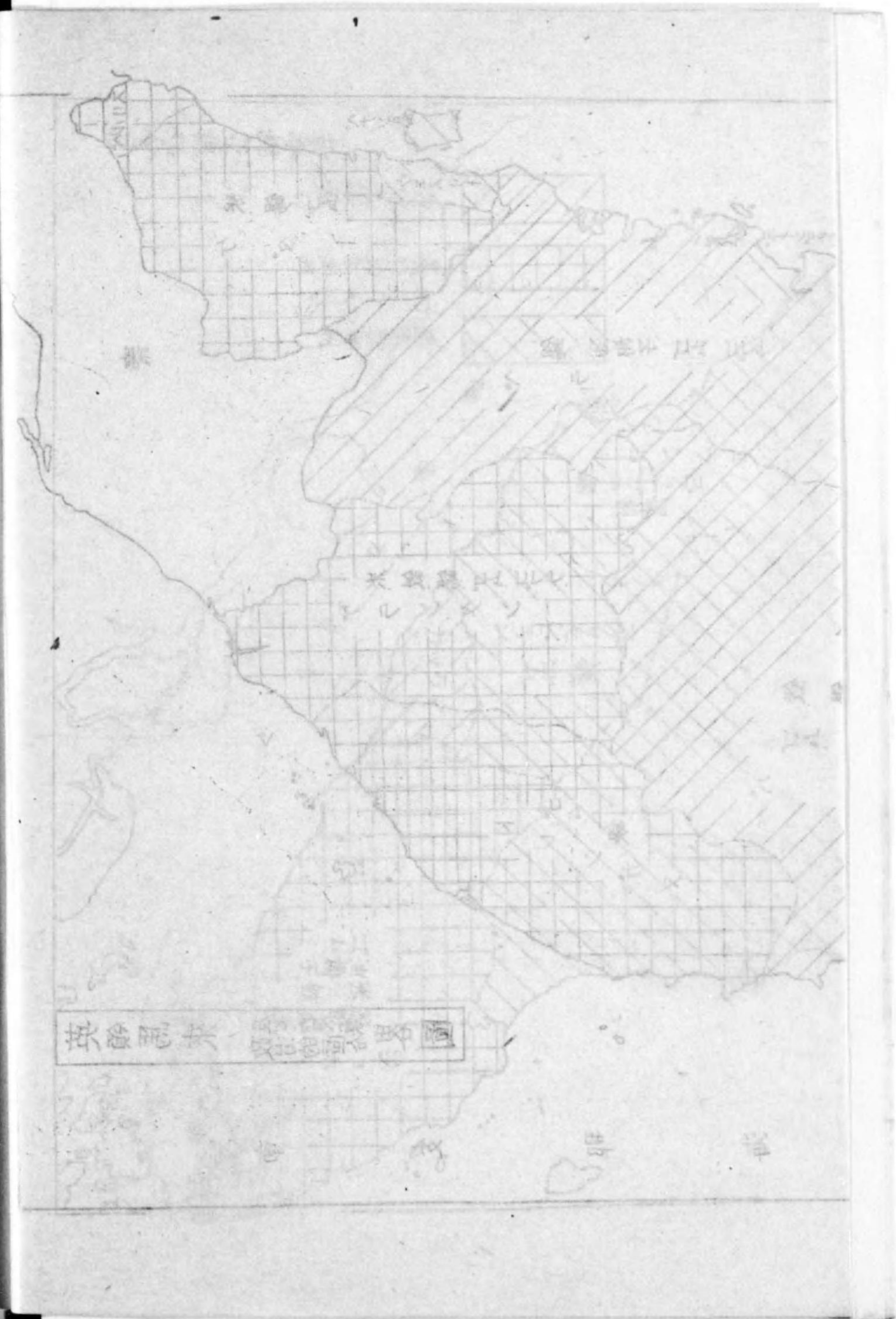
新嘉坡
新嘉坡
ツンゲン

鐵道輸送

以上



蘭印卜其纖維資源



こゝろわり

蘭印ハ無敵皇軍ノ足下ニ懼伏シタ。ソシテ日章旗ノ下、東印度諸島ノ耀シイ名ニ於テ英領北「ボルネオ」ト共ニ大東亞共榮圈内ノ主要ナル一員トシテ東亞ノ檜舞台ニ颯爽ト登場シタ。

大御稜威ノ下、共存共榮ノ限りナイ慈光ニ浴セバ、七千萬ノ「インドネシヤ」人ニモ三百年來ノ生色ハ蘇ツテ來ヨウ。山ノ幸、地ノ幸、海ノ幸ヲ深ク其懐ニ藏スル世界ノ寶庫「東印度諸島」ハ我等大和民族ノ指導ニヨリ、彼等「インドネシヤ」人ノ手ニヨツテ、惜シミ無ク大東亞建設ノ爲メニ開カレヨウ。

以下ハ東印度諸島中今後主役ヲ演ズベキ舊蘭印ノ素描ト其纖維資源ニ就テデアル。便宜上、總テモトノ蘭印ノ名ヲ以テ呼ンデ居ル。御諒承ヲ乞フ次第デアル。

蘭領東印度

一、地 域

蘭領東印度（以下略シテ蘭印トイフ）ハ亞細亞大陸ノ南東ニ突出セル印度支那半島及馬來半島ニ連ナル島嶼群カラナル。東西五千軒、南北二千軒ニ亘リ、ソノ面積一、九〇四、三四五平方軒デアツテ我日本全土（六七五、〇〇〇方軒）ノ三倍弱ニ當ル。是等大小ノ島嶼ヲ大別シテ左ノ四地區トスル。

(一) 大「スندا」列島―「スマトラ」「ジャバ」「ボルネオ」「セレベス」ノ四大島ヲ包括シ全領ノ基本地域デア
ル。

(二) 小「スندا」列島―爪哇ノ東「バリ」「ロンボク」島ヨリ「チモール」島ニ至ル一連ノ小島群デア
ル。

(三) 「モルツカ」群島―俗ニ香料群島ト言ツテ「セレベス」「ニューギニア」間ノ小島群デ歐洲人初期ノ活躍ノ
對象地域デア
ル。「テルナテ」「アンボイナ」「パンダ」島等舊時ノ香料貿易ノ據點ハ何レモ此群島中ニ在リ、
「ジロロ」「セラム」ノ兩島ガ最大デア
ル。

(四) 「ニューギニア」島（一名「バプア」島）世界第二ノ大島「バプア」島ノ西半ト之ニ附屬スル島嶼ヲ含ム。

全領域ヲ政治的ニ二分シテ爪哇島（其東北ニ密接セル「マツラ」島ヲ常ニ含ム）ヲ内領、其他ヲ總テ外領ト稱ス。

○主要島嶼面積及人口（一九三〇年度）

爪哇及マツラ	一三二平方軒	四一、七一八千人	三一五人（一平方軒當リ）
スマトラ	四五七	七、九七六	一七
ボルネオ	五九三	二、一六八	四
セレベス	一八九	四、二三一	二二
バプア	三八二	三三三	一
バリ、ロンボク	一〇	一、八〇二	一八〇
チモール	一五	三五〇	二三
ソロール	一七	六二六	三七
合 計	一、九〇四	六〇、七二七	三二

二、山脈、平野ト高原

山脈―蘭印ノ山系ハボルネオ及ニューギニアノ兩島ヲ除ク外ハ總テ火山系デ、火山脈ハスマトラノ北端ヨリ西海岸ニ沿フテ南下シ、爪哇ノ中央ヲ縦走シテ小スندا群島ニ至リ、ソレヨリ直角ニ北ニ折レテセレベスノ北端ミナハサ地方ニ至リ比律賓ノミンダナオ島ニ及ンデオル。

平野―蘭印ノ地圖ヲ見ルト分ルガ山脈ハ何レモ各島ノ外側ニ在リ、河川ガ何レモ内海ニ注イデ居ル關係上、所謂平野ト稱サレルモノハ、島ノ内側ニ存在シテ居ル。平野トシテハ爪哇ニハ東部爪哇平野、中部爪哇平野、ルシソロ平野、

バスルアン平野、フリボリンゴ平野、中部爪哇北部平野、西部爪哇平野ガアリ、スマトラニハバリサン山脈ヲ境トスル北、東半ノ平野ソレニボルネオ島ノ南部沿岸平野等ガアル。併シナガラスマトラノ北東半ノ海岸地帯及ボルネオ南部沿岸地帯ノ平野ニハ沼澤地多ク實質ニ於テハ平野トシテノ經濟的價値ハ有シテナイ。

高原—之等山脈ト平野トノ間ニハ數多クノ高原アリ。高原ハ清涼ノ地トシテ溫帶作物及野菜類ノ栽培ニ適ス。

三、人 口

蘭印ノ人口ハ一九三〇年ノセンサスニヨレバ、六〇、七二七、二三三人デアツテ、コノ國勢調査ハ毎十年毎ニ行ナヘレルモノ故一九四〇年ニ最近ノ人口ガ調査セラレテ居ル筈デアルガ、一九二〇年カラ三〇年ニ至ル十ケ年間ニハ平均年一三萬人以上ノ大増加率ヲ見テ居ル故、同様ノ比率デ増加シテ居ルモノト見レバ、一九四〇年ノ人口ハ七千萬以上デアルコトハ想像ニ難クナイ。而シテ人口分布ガ極端ニ偏在シテ居ルコトガ當領ノ一特徴デ全人口ノ殆ンド七割方面積カラ言ヘバ、七分ニモ足ラヌ爪哇一島ニ密集シ、爪哇ノ人口密度ハ一平方秆當リ三百數十人ニ達シ、日本内地ノ倍ニ近い密度デ其稠密ナルコトハ世界第一ダガ、一方ニューギニアノ様ナ一平方秆當リ一人ニモ充タヌ極端ニ人口稀薄ノ地方モアル。

主要ナル島ノ人口及其密度ハ前頁ニ就キ見ラレ度シ。

蘭印ハ農業國故大都市ハ發達シナイ。爪哇ノ様ナ處デモ其首府バタビヤデスラ人口五十餘萬ノ程度、第二ノ都邑スラバヤガ三十萬、スマランガ二十數萬程度デ堂々第三位ニ列シテ居ル。他ハ押シテ知ル可シテ十萬以上ノ都市ハバンド

ン、スラカルタ、チヨクチャカルタ位ノモノデアル。

外領テ稍目ボシイ都市ハスマトラニ多ク近時石油ト大規模農園業デ顯著ナ進展ヲ示シテ居ルバレンバン、其他北部

東海岸ノメダン、西海岸州ノバダン等ガアル。

ボルネオニハ南東部ノバンジャルマシ、西部ノボンチアナクト東部ノバリツクババン位ノモノデ、セレベスハ西南半島ノマカツサルガ第一ノ中心地デ東北半島ノメナドガ次位ニ來ル。

四、住 民

如何ニ土地肥沃トハイヘ、爪哇ノ人口ハ其餘リニ過度ナ人口集中ニ依リ、既ニ飽和状態ニ達シ、是ガ緩和ノ爲メ政府デハ爪哇ヨリ人口稀薄ノ外領ニ集團的ニ人口ヲ移シテ、同時ニ外領地方開發ノ一助トナサント大イニ努力シツ、アツタガ、今マデノ處大シタ成果ヲ擧ゲテヲラス。之ハ計畫丈ケデ實行スル資金ガ少ナイノト、夫ニ土着性ノ強イ土人ハ餘程ノ事ガ無ケレバ、故郷ノ土地ヲ離レテ他郷ニ開拓ニ行ク等トイフ意氣モ慾望モナク、失業シタトイフテモ他ノ工業國ニ見ル様ナ切實ナル飢餓ニ襲ハレルトイフ様ナ事モナク、衣服ナド常夏ノ國ナレバ身ヲ包ムヲ以テ足り、居ハ星ヲ仰イデ街頭ニ桃原ノ夢ヲ追フトイフ極メテ安易ナ生活ガ出來ルノデ中々自分ノ故郷ヲ後ニスル氣ニ成レヌノデア

○爪哇ノ住民

最モ文化ノ高イ爪哇人ハ約二千七百萬人デ爪哇人口ノ六六%ヲ占メ中部爪哇ト東南及西北海岸一帯ノ地方ニ住ム。

フレアングル高原ヲ中心トシテ西部爪哇ニ住ンデ居ルノガ、**スンダ**人デ九百萬人、又「**マツラ**」ト其對岸ノ爪哇東端部ニハ性慍悍ヲ以テ知ラレル四百萬人餘ノ「**マツラ**」人ガ居リ、特ニ牧畜及漁業ニ長ズ。蘭印ノ兵隊ハ此ノ「**マツラ**」人ガ多イ。バタビヤ市附近ニハ純粹ノ馬來人ガ數多居ル。

是等土人ノ性格ハ夫々多少ノ相異ハアルガ、一般的ニ言ヒ得ル事ハ性質至極溫順デ、計數ノ觀念ハ極メテ薄イガ、仕事ノ遺方ナドハ實ニ丁寧デ、能率ノ高度等トイフ事ハ望ミ難イガ、善導スレバ與ヘラレタ仕事ヲ熱心忠實ニ遺ルトイフ特長ガアル。彼等ノ奉ズル宗教ハ回教デアル。

○「スマトラ」ノ住民

「**スマトラ**」ノ種族ハ極メテ錯雜シテ居ルガ、大別シテ大陸ヨリ渡來セル「**マレー**」人ト土着ノ「**インドネシヤ**」人トニナルガ、又古クカラ「**アラビヤ**」人、支那人「**ベンガル**」人等ガ渡航シ來リ此等ノ間ニ各種ノ混血種族ガ出來テ居ル。

純粹ノ馬來人ハ東部海岸一帯ニ多ク、南「**スマトラ**」人ト言ツテ南部ニ住ムモノハ馬來人ト原住民「**サカイ**」族ノ混血デ文化ノ程度ハ低イ。馬來人ハ可ナリノ文化ヲ有シテ居ルガ、怠惰ノ爲メ今後ノ發展ハ期待シ難イ。

「**スマトラ**」島中最モ將來性ノアルノハ「**アチエー**」族デアル。六十五萬、北方ニ住ミ米作ヲ主トスル農業及漁業ヲ營ム。性慍悍、活動性ニ富ム。和蘭官憲ガ其征定ニ一番手ヲ燒イタノハ此ノ「**アチエー**」族デアル。近時漸ク文化ニ接觸シタノダガ、性來ノ活動性デヨク働キ且比較的從順デアル。

○ボルネオノ住民

ボルネオノ原住民ハ**インドネシヤ**族ニ屬スル**ダイヤク**族デ、馬來人渡來後奧地ニ壓迫サレテ放浪生活ヲ營ムモノアリ、又集團ヲナシテ村落ヲ構成シ大家族生活ヲ營ムモノモアリ。彼等ノ性格ハ大體**マレー**人ニ類似シ怠惰デアリ、回教ヲ奉ゼズ、迷信的邪教ニ支配セラレ首狩ノ惡習ヲ存スルモノモアル。

海岸ニハ**マレー**人ガ多イ。

○セレベスノ住民

土人デ見ルベキモノハ南部半島一帯ニ住ム「**ブギス**」人「**マカツサル**」人ト北半島東端ニ住ム「**ミナハサ**」人デア
ル。

「**ブギス**」人、「**マカツサル**」人ハ比較的伶俐デ商業、船乗ヲ營ム。

「**ミナハサ**」人ハ他ノ「**セレベス**」人ト異リ、色白ク容貌整ヒ強健且伶俐デ基督教ヲ信奉シ、今後教育ノ仕様ニヨツテハ將來性ガアル。

○「モルツカ」群島ノ住民

原住民ハ「**インドネシヤ**」人ト「**バプア**」人トノ中間ニ屬シ、更ニ此等ト支那人「**アラビヤ**」人トノ混血モアリ雜多デアル。一般ニ大ナル島ノ奧地ノ住民ハ「**アルフル**」人ト呼ビ「**バプア**」系ニ屬シ、海岸地方ノ住民ト隔絶スル。海岸民族ハ甚ダシク混血シ宗教ニモ基督教ト回教トガ入ツテ居ル。「**アムボン**」「**テルナテ**」等ハ古クカラ歐洲人ノ香

料貿易ノ中心地デ、文明ニ接スル事長ク文化ガ比較的高イ。

○ニューギニアノ住民

「ニューギニア」ノ種族ハ「バプア」人ノ總稱ヲ以テ呼バル。「バプア」トイフノハ馬來語「プア、プア」ノ轉化ト謂ハレ、縮毛ノ意デアル。極メテ怠惰デ女ヲ酷使シ、椰子酒ヲ好ンデ醉生夢死スルト言フ有様ダ。併シ體力極メテ強イ故之ニ勞働ノ習慣ヲ養成スルコトニ成功スレバ、相當開發モ出來ルデアロウ。

「バプア」人ハ「メラネシヤ」族ニ屬ス。

○小スンダ列島ノ住民

爪哇ニ隣ル「バリ」「ロンボク」ニハ「バリ」人「サ、ツク」族アリ。「スンバワ」ニハ「スンバワ」人アリ、此等ハ何レモ馬來系ニ屬ス。「バリ」人ハ爪哇ニ回教傳播ノ際、逐ハレタ佛教徒ノ子孫デアツテ、「バリ」ハ今日デモ蘭印唯一ノ佛教地デアル。

「チモール」島ヲ中心トシテ附近ノ島々ニハ「バプア」系ニ屬スル固有ノ土人ヲ見ル。

○蘭印ニ於ケル華僑

支那人ハ「世界ノ雜草」デアル、踏マレテモ蹴ラレテモ後カラ後カラ無限ニ民族的發展ヲ續ケル。

南洋華僑八百萬人ノ中、蘭印ニハ百二十三萬人アリ。元來華僑トハ「華人ノ僑居」トイフ意味デ、故郷ヲ離レテ廣ク世界ニ散在スル支那人ノ總稱デアル。而シテ華僑ノ殆ンド全部ガ南方支那人ト言ツテヨイ位デ、蘭印ノ華僑ハ主ニ

廈門、福州カラ出テ來タ福建人ニヨツテ占メラレル。

蘭印ノ華僑ニ新來ノ支那人ト、既ニ古ク移住シタ者ノ子孫トアリ、前者ヲ新客（蘭印デ「チチトトク」ト呼ブ）後者ヲ老客（ババ）ト言フ。

華僑ノ存在ハ歐洲人ト土着人トノ間ニアリ。所謂中産階級ヲ形造リ、經濟上ノ勢力ハ實ニ牢固トシテ拔ク可カラザルモノガアル。蘭印内デ最モ華僑ノ密集シテ居ル地方ハ、爪哇、スマトラ東海岸州及「バンカ」島デアル。土人ヲ相手ノ小賣商人トシテノ彼等ノ地盤、又歐洲人ノ營ム輸出入貿易及卸商モ華僑ノ仲買商ノ手ヲ經ナケレバ何モ出來ヌト言フ現状デ、實ニ彼等ノ勢力ハ想像以上ノモノガアル。又勞働者トシテモ「ホルネオ」ノ農業ノ發達ハ支那人ニ負フ處多ク「スマトラ」東海岸デモ支那人ノ契約移民苦力ヲ輸入シテ、煙草、ゴムノ大規模農園ノ發達ノ基礎ヲ作ツタ。元來土人ハ計數ノ觀念ニ乏シクミス／＼是等華僑ノ中間的存在ニ搾取サレテ居ルノヲ知リツ、モ如何トモ爲シ得ズ彼等ノ跳梁ニ任カセテ居ル現状デアル。

○蘭印ノ歐洲人

大部分ハ元ヨリ和蘭人デアリ、支配民族トシテ總テノ機關ノ首腦中樞部ヲ占メテ居ルコトハ勿論ダガ、和蘭人トシテ數ヘラレル二十萬八千人ノ中、純粹ノ和蘭人ハ僅カニソノ四分ノ一デ残りノ四分ノ三ハ大體多少ナリトモ土人ノ血ヲ混ヘタ混血デアル。而シテ混血和蘭人ハ和蘭ガ此地ニ根據ヲ築イテカラ三世紀ニ亘リ、土人民族改良及土人トノ融和ノ爲メニ獎勵シテ來タ政策ノ成果デアルガ、現在ニ於テハ此等混血人ハ蘭印政治ノ痛ト言ハレテ居タ程デ、彼等ハ和蘭

人トシテハ土人ノ血液ノ混入ヲ悲ンデ自嘲的トナリ、土人トシテハ和蘭人ノ血液ノ混入ニヨツテ自負ヲ感ジ、斯クテ和蘭人デモ土人デモナイ一種獨特ノ存在トナツテ居ル。

○蘭印ノ日本人

日本人ハ統計上ハ歐洲人中ニ含マレ總數七、二〇〇人(一九三〇年度)輸出貿易ニ、中小商業ニ、農園經營ニ、漁業ニ行クトシテ可ナラザルハナク、大イニ大和民族ノ氣ヲ吐イテ居タ。今後ハ是等先住ノ經驗アル人々ガ先達トナツテ、我等日本人ガ蘭印ノ天地ニ於テノ發展活躍ハ洵ニ目醒マシキモノガアロウ。

五、氣 候

○氣 溫

四季ヲ通ジテ變化少ナク、海岸附近ノ地ハ平均攝氏二四度カラ二七度位デ、平均最高氣溫ト平均最低氣溫ノ差ガ最モ妙イノハ爪哇西部ノ一度、最モ大キイノハ「アムホイナ」ノ二〇度デアル。又一日ノ氣溫ノ平均較差ハ乾燥季六、七度、降雨季ノ四、五度デアル。

○雨 量

蘭印ハ概括的ニ之ヲ乾燥季ト降雨季ノ二季ニ分ツ事ガ出來ルガ、地方ニヨツテハ必シモ一樣デハナイ。然シ十二、一、二月トイフ月ハ濠洲ノ方ハ夏、亞細亞大陸ハ冬デ、從ツテ風ハ氣壓ノ高イ北西カラ偏北西風トナリ、多量ノ水蒸

氣ヲ印度洋方面カラ持ツテ來ルノデ、大體ニ於テ雨季ガ現出シ、六、七、八、九月頃ハ反對ニ風ハ濠洲方面カラ吹イテ來ルガ、偏南東風ノ氣流平均シテ雨ヲ作ラナイ。然シ乾季雨季ト言ツテモソレハ爪哇ニ於テサハ絕對的ノモノデハナク、比較的明ラカナノハ東部爪哇デアル。他ノ方面ニ於テハ乾季ニ却ツテ多クノ雨ヲ齎スコトガアル。

「スマトラ」ノ北部ニアツテハ八、九、十、十一月中雨ガ最モ多ク、赤道下ニアツテハ一年ヲ通ジ常ニ降雨ヲ見ル爪哇ノ西部「スマトラ」ノ南部デハ爪哇東部ノ乾燥季中ニ却ツテ雨ガ多イ。雨量ヲ總括的ニ見ルト爪哇ノ北岸、東部地方及「セレベス」ノ「バル」地方ハ雨量尠ク、爪哇ノ西部「セレベス」「スマトラ」及「ホルネオ」ノ全土ニ於テハ雨量年二、〇〇〇耗以上デアル。

○風 位

蘭印ニ於テハ偏北西季節風ト偏南東季節風トガ最モ顯著ノモノデアルコトハ既ニ述ベタ。爪哇ニ於テハコノ季節風ガ農業上極メテ重要ナル役目ヲナシ殊ニ甘蔗、米ノ栽培等ハコレニ左右セララル、コトガ甚ダ多イ。

普通十二、一、二月ガ偏北西風ノ時期デ、六、七、八、九月ガ偏南東風ノ時期デアル。赤道ノ南北十五度位ハ所謂無風帶デ微風ハアルガ暴風雨等ハ殆ンドナイ。

六、産 業

蘭印モ他ノ熱帶植民地ノ例ニ漏レズ、經濟ノ基本體系ヲ形成スルモノハ原始産業デアル。領内住民ノ食料ヲ大體自

給シ得ル上ニ、國際市場向ケノ巨額ノ農、鑛製品ノ輸出アル反面、工業ニ於テハ殆ンド見ルベキモノナク領内需要ノ工業製品ノ大半ハ輸入ニ仰イデ居ル。

今原始産業中纖維資源ニ關係アル農業ニ就キ、少シク述ベテ見ヨウ。

○農業

蘭印ノ農業ノ特長トシテ第一ニ舉グベキハ、農産物ノ多様性デアル。他ノ南洋諸國ニ於テハゴク少數ノ農産物ガ非常ニ大ナル比重ヲ占メテ居ル。例ヘバ佛印、泰ハ米ノ一本槍、比律賓ノ砂糖、馬來ノゴムト言ツタ工合デアル。然ルニ蘭印ハ實ニ多種多様ノ農産物ガアリ、而モソノ各ガ何レモ世界農産物市場ニ重要ナル役割ヲ演ジテ居ル。第二次世界大戰以來軍需資源デアアルゴムノ需要旺盛ヲ極メ、價格ノ上昇ト相俟ツテソノ輸出金額ハ斷然他ノ農産物ヲ抜イテ第一位ニアルガ、第二位ノ砂糖以下重要輸出農産物タル茶、コブラ、煙草、「シザル」纖維、油椰子等何レモ僅少ノ金額ノ差デ年々ソノ順位ヲ争ツテ居ル。

○蘭印輸出農産物順位 (金額順)

一九三九年	一九三七々	品名
1	1	ゴム 砂糖
2	2	茶
3	3	ココ椰子 及製品
4	4	煙草
5	5	シザル 纖維
6	6	バーム 油
7	7	珈琲
8	8	オタカビ
9	9	胡椒
10	10	カホツ
11	11	ク
12	12	カホツ

○蘭印輸出農産物ノ世界總輸出高中ニ占メル比率

一九三九年	一九三七々	一九三六々	一九三五々	一九三三々
1	1	1	1	3
2	2	3	5	1
3	3	2	2	5
4	4	5	4	2
5	5	4	4	4
6	6	11	11	11
7	7	8	7	8
8	8	6	6	6
9	9	10	12	10
10	10	7	8	7
11	11	9	10	9
12	12	9	10	9

一九三九年 一九三七年

八四%

九〇%

規 那	胡 椒	カ ホ ツ	ゴ ム	シ ヅ	茶	珈 琲	砂 糖
八四%	八一	七一	三四	三一	不明	二一	六四
九〇%	七九	七〇	三八	三〇	二三	一七	二〇
							六
							五

○蘭印重要農産物輸出金額表

一九三九年度 一九六、五三五千盾

蘭領東印度

砂	七八、〇四〇
糖	五七、〇八九
茶	四九、二四四
コブラ、バーム油等	二九、一二五
胡椒、規那等	二六、五八五
煙草	一九、七三六
シザル、カンタラ纖維	一一、八九九
珈琲	九、九〇三
タビオカ	四七八、一五六
合計	七四六、八七五千盾
輸出總計	

而シテ何ガ故ニ蘭印ガ斯塔クモ多種多樣ナル農産物ヲ產出スル様ニナツタカト言フニ、是ハ決シテ古クカラ斯塔クアツタノデハナク、和蘭政府ガ蘭印ニ對シテ本格的ニ自由農業政策ヲ樹立シタ十九世紀ノ終リ頃カラデアツテ、政治上、産業上ノ理由カラ和蘭ハ盛ニ外資輸入、外國人ノ農園(エステート)企業ヲ全領内ニ獎勵シ土地取得、其他ニ對シテノ法規ヲ出來ル丈ケ緩和シタ結果、大資本ノ下ニ大規模ナル農園ハ發達シ各種農産物ノ試植栽培ヲナシテ、コレニ成功シタ結果種々ナル農産物ノ大規模栽培トナツタ譯デアル。

○蘭印農園(エステート)企業各國投資額

和蘭	二〇・〇億盾
英國	三・五

米國	二・〇
佛國、白耳義國	一・二
日本	〇・二五
獨逸	〇・二
瑞西	〇・〇五
伊太利	〇・〇三
其他	〇・二七
合計	二七・五

斯ク大規模ノ農園企業ノ外ニ勿論、土人個人ノ耕作スル農地モ非常ニ多イ。土人ハ主トシテ自分ノ食スル食糧用農産物タル米、玉蜀黍「カツサバ」甘藷等ヲ作ル。エステート農業ハ輸出向農産物栽培ヲ以ツテ原則トスルガ、併シカボツク、胡椒、コブラ等ノ輸出向農産物ハ土人ノ農地デ主トシテ作ラレテ居ル。

今エステート農業ノ農園數及其耕作面積ヲ見ルニ少シ數字ハ古イガ、一九三〇年度現在デ全領ニ於テ農園數二、四六七、總耕作面積三、八二九、三八二ヘクタール

然シ其後増加ノ一途ヲ辿リ一九四〇年ニハ農園總耕作面積九百萬ヘクタール

餘ニ達シタ。之ニ對シ土人ノ耕作スル土地面積ハ概算ダガ

爪哇 八百五十萬ヘクタール

蘭領東印度

耕作ニ從事スル土人ハ爪哇デハ八百五十萬、外領デ四百萬人カラアルト言フ。而シテ前記農園ノ勞働力ハ如何ニシテ之ヲ得ルカト言フニ、土人ノ集團勞働力ノ外ニ、支那人ノ契約移民ヲ大イニ用ヒテ居ル。殊ニスマトラ東海岸ノ農園ノ發達ハ是等支那人ノ勞働力ニ負フ處大デアルコトハ既ニ述ベタ。

七、貿易

蘭印ノ貿易ハ原始産業國ノ常トシテ、毎年例外ナク出超デアル。而シソノ出超額ガ年ニヨリ一億盾カラ十億盾近クニ迄及ブト言フ位變動常ナイノハ、輸出額ノ大部分ヲ占メル農産物ガ世界農産物價ノ劇シイ騰落ニヨリ常ニ影響サレテ居ルカラデアル。

年次	輸出	輸入	出超
一九三九年	七四七	五一九	二二八
一九三八年	六六五	四八五	一七九
一九三七年	九四九	四九八	四五一
一九三五年	四五二	二七七	一、一七四
一九三〇年	一、一六七	八八九	二七七
一九二五年	一、八一三	八六二	九五〇

(單位百萬盾)

○主要輸出品目表 (一九三九年度)

品目	金額
品	一九六、五三五千盾
石油及同製品	一五九、〇〇一
砂糖	七八、〇四〇
鑽石卑金屬類(主トシテ錫)	五七、六一四
茶	五七、〇八九
コブラ、バーム油等	四九、二四四
胡椒、規那等	二九、一二五
煙草	二六、五八五
シザル、カンタラ纖維	一九、七三六
珈琲	一一、八九九
タビオカ	九、九〇三
其他共總計	七四六、八七五

○主要輸入品目表 (一九三九年度)

衣服類(糸モ含ム)	一二三、〇四八千盾
飲食料品及嗜好品	八六、八一五
機械及武器	六一、三五七
化學品、藥品塗料	四九、四四二
車輛及部分品	三三、二〇二

紙及同製品
其他共總計 一六、三八二
五一九、二八七

○蘭印綿織物輸入國別表 (一九三九年度)

日本ヨリ 三五、四四九千盾
和蘭 二一、八五七
英國 六、六八二
其他共總計 七〇、二七〇

○蘭印織物(但綿織物以外)輸入國別表 (一九三九年度)

英國 七、五一三千盾
日 本 六、二八七
和蘭 二、四七六
英國 一、三八九
其他共總計 二二、八三八

○蘭印主要國別輸出入金額 (一九三九年度、單位百萬盾)

日 本	輸 出 二四・七	輸 入 八五・一
米 國	輸 出 一四四・七	輸 入 六三・八
和 蘭	輸 出 一〇七・五	輸 入 九六・六

英 國	三三・三
シンガポール	一一四・五
其他共總計	七四六・九

八、纖維工業

一九三〇年 綿業自給自足ヲ目標ニ種々ノ研究開始。

一九三一年 和蘭綿業代表エス・メンコニヨツテ蘭印内ニ綿業設立ニ就イテノ具體的調査開始サル。

一九三三年 一、和蘭ノ「インテルナシオ」王國紡績會社ガ筆頭トナツテ資本金百萬盾ヲ以テ「ブレアンゲル」紡績會社ガ「バタバア」ニ創立セラル。

二、和蘭ノ綿業者、銀行家、輸入業者、船會社ノ共同出資デジャバ織物會社創立、未晒綿布生産ニ從事ス。

一九三四年 一、「エス・メンコ」「ウイツセリング」「エツケル」「リツシング」ノ四名デ組織シタ綿業調査委員會ガ其調査ノ結果發表。ソレニ依レバ蘭印内ノ需要ニ應ズル規模ノ紡績工場設立ノ爲メノ原料、動力、水等ノ供給ニ就テハ成算ハアルガ、約一二、〇〇〇人ノ熟練工ヲ必要トシ、コレヲ急速ニ得ル道ハナク今後養成セネバナラヌト言フ。

二、政府ハコノ調査ニ基キ二ヶ年計畫四〇―五〇萬盾ノ豫算ヲ以テ試驗事業ヲ起サセ、次イデ七百萬盾

ヲ支出シテ、將來一大紡織工場ヲ設立スベク準備中デ、既ニ第二次試験ニ着手セリ。
三、全蘭印ヲ通ジ手織機六、〇〇〇台、織機六一〇台トナル。主トシテサロン類ノ製造ニ従事シ、白布ノ製造ハ殆ンド行ナハヌ。

一九三六年 「スラバヤ」ニ爪哇織布工業會社創立、工場ヲ「バゴン」ニ建設。

一九三七年 手織機一〇、〇〇〇台、織機七五〇台トナル。

一九四一年 一、爪哇織物「テガル」ノ紡績試験所ガ一五、〇〇〇錘ヨリ四〇、〇〇〇錘ニ擴張豫定。

二、綿糸生産高年産六、四〇〇梱ニ達ス。

三、政府ノ紡績試験所ハ現在「バンドン」「スラバヤ」「チヨクヂヤカルタ」「マカツサ」ニアリ。

斯クテ熱心ナル蘭印政府ノ指導獎勵ノ下ニ紡績業並ニ土人ノ家内工業ハ逐次發展ノ過程ニアツタ。

蘭印ノ纖維資源

蘭印ノ棉花

一、總論

蘭印ハ濕度ノ高イ常夏ノ國デアリ、降雨一般ニ多イ故棉花栽培ニハ不適當デアルトハ蘭印政府ガソノ農事試験所ノ

實驗及ビ實際、農園經營ニヨツテ得タ成績ニ基キ達シタ結論デアツテ、爾來棉作ヲ獎勵セナカツタ故、大規模ノ農園栽培ハ發達シテナイガ、併シ在來棉種トシテ毛筋ノ見ルベキモノ二、三アリ、此等在來棉種產地ニ就テヨク研究シタナラバ或ハ「蘭印ハ棉作ニハ不當地ナリ」トノ從來ノ定説ヲ修正スル事ガ出來ルカモ知レヌシ、又大東亞共榮圈内ニテ現在ノ處如何ニシテモ自給出來ヌモノハ綿糸布ノ原料、棉花デアツテ、共榮圈内七億萬人ノ綿布需要年九十億碼ノ原料棉花ハ實ニ二千萬擔ヲ必要トスルガ、其内現在共榮圈内デ自給出來ル數量ハ支那ヲ中心トシテ五百萬擔、差引千五百萬擔ハ不足スル勘定デアリ、コレガ爲メ棉花増産ハ當面ノ急務デアルトニ思フ致セバ、我々ハ以下蘭印ノ在來棉種ヲ中心トシテ蘭印ノ棉作ニ就キ一應檢討シテ見ル必要ガアルト思ハレル。

二、蘭印在來棉種ノ紡績試驗成績

(イ) スマトラノパレンバン在來種

原棉纖維ノ長サ $\frac{3}{8}$ 吋ヨリ $\frac{5}{8}$ 吋平均 $\frac{5}{8}$ 吋、稍赤味ヲ帶ビ纖維粗剛、天然撚少ナイ、單獨デハ十番手以下ノ太番ヨリ紡出出來ヌ。

(ロ) セレベス、ミナハサ州ノ在來種

多年性ノ樹木ヨリ採レル、纖維ノ長サ $\frac{3}{8}$ 吋ヨリ $\frac{1}{2}$ 吋、平均一吋。大體白色ナルガ赤味ヲ帶ビル處モアリ、纖維ハ細ク柔カシ、天然撚モ相當多イ。

四〇番經糸紡出可能。

(ハ) 爪哇スラバヤ附近在來種

纖維ノ長サ $\frac{7}{8}$ 吋ヨリ $1\frac{1}{2}$ 吋平均 $1\frac{1}{4}$ 吋、色白ク、光澤アリ在來棉種中最良、六〇番經糸紡出可能。
右ハ日本大紡績ノ試験成績表デアル。

三、棉花生産額ト植付面積

蘭印ノ農業統計ハ農園企業ヲ主トシテ土人農地ニ就テハ餘リ詳ニセヌ、而シテ在來棉花栽培ハ多クコノ土人農地ニ於テ行ナハレテ居ル故、勢其産額ハ正確ニハ知り難イ。

大體蘭印全體トシテ現在在來棉種ノ耕作面積ハ五八、〇〇〇英反、コレカラ上ガル棉花ハ實棉デ約九五、〇〇〇擔(繰棉相當量約三二、〇〇〇擔)コノ外ニ紡績用棉花トシテ特ニ近代的農園企業ノ組織ノ下ニ栽培サレテ居ルモノガ少量アル。右ニ依レバ英反當リ收穫率ハ平均繰棉ノ〇・五五擔ニシカ當ラズ。土人ノ幼稚ナル原始的栽培方法ノ下ニ唯天候任セノ棉作デアルコトヲ察知スルコトガ出來ル。

四、棉花輸出高

日本ハ古クヨリ蘭印棉花ノ主要ナル得意先ノ一ツデアツタ。往時サンバレートイフ稱呼ノ下ニ小棉屋ガ取扱ツテ居タ棉花ハ實ニコノ蘭印ノ在來棉種デアル。其當時棉屋ハ神戸ノ華僑ガ實棉ノ儘輸入スルサンバレーヲ買取リジニニ掛ケ繰棉トシテ紡績ニ賣ツタモノデアル。毎年平均千噸位(繰棉相當量五、五〇〇擔)ヲ輸入シ、昭和十五年度デモ

輸入量一、一〇〇噸ニ上ツテ居ル。

(イ) 繰棉輸出量 (單位噸)

爪哇	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
外領	九四三	九一一	一、四五八	六八七	八六九	三四一
内譯	七	五	四五	二二	一〇〇	八三
バレンバン	七	五	四五	一九	五八	一
其他	九五〇	九一六	一、五〇三	七〇九	九六九	四二
合計	一五、七〇〇	一五、一〇〇	二四、八〇〇	一一、七〇〇	一六、〇〇〇	七、〇〇〇
擔ニ換算						
						七、〇〇〇擔

(ロ) 實棉輸出量 (單位噸)

爪哇	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
外領	二〇六	二六	六一	六〇	三三	一三七
内譯	七一〇	四七三	一、七八五	二、〇一九	二、九九九	二、〇二五
バレンバン	七一〇	四七三	一、七八五	二、〇一五	二、九九七	一、九八六
バレンバン及						三三
ロリボク						六
其他						
合計	九一六	五八九	一、八四六	二、〇七九	三、〇三一	二、一六二

蘭印ノ棉花

擔ニ換算棉 五、〇〇〇 三、二〇〇 一〇、二〇〇 一一、四〇〇 一六、七〇〇 一一、九〇〇擔
 (註) 爪哇ノ棉ハ普通織棉ニシテ輸出サレ外領ノ棉ハ實棉ノマ、輸出サル)

五、各地ニ於ケル棉花栽培ノ狀況

蘭印ノ棉花栽培面積ハ既述ノ通り大約五八、〇〇〇英反、棉花栽培好適地トシテ

(イ) 爪哇中部以東

(ロ) スマトラ東南部(主トシテパレンバン附近)

(ハ) セレベス中部及北部

(ニ) モルツカ諸島

(ホ) 小スンダ列島

ガ舉ゲラレ何レモ雨季ト乾季トガ可ナリ截然ト區別サレル地方デアアル。今各地ニ就イテソノ栽培狀況ヲ見ヨウ。

(イ) 爪哇及マツラ地方ノ棉花栽培

主要棉花産地ハ「スマラン」「ジャバラ、レンバン」「マデイオン」「マツラ」デアツテ主トシテ土人農地デ栽培セラル、
「エステート」農業トシテ大規模ニ耕作サレルモノ僅カニ五、ソノ耕作面積三五六ヘクタール。

全耕作面積ノ七七・五%ハ水田ニ二二・五%ハ畑地ニ植付ケラレル。

爪哇及「マツラ」棉花栽培面積 (ヘクタール)

一九三四年度	一九三五年度	一九三六年度	一九三七年度	一九三八年度
一一、四〇〇	一〇、三〇五	一三、三八二	一六、〇二六	八、一八四ヘクタール

植付ハ二、三月ノ候ニ行ナハレ八、九、十月ノ乾燥季ニ摘取ラル。

今主産地ノ一ツスマランノ氣温、濕度及降雨量ニ就イテ見ンニ

氣温(氏)	平均		最高		最低	
	平	均	平	均	平	均
氣温	二五・七	二六・七	二六・四	二六・四	二二・八	二二・八
濕度	八六%	八二%	九六	九六	八二%	八二%
降雨量	九七	九六	九六	九五	九五	九六
最低	六四	五九	五九	五二	五九	五九

季節風	西季節風		東季節風	
	一月—二月	三月—四月	七月—九月	年 平均
氣温	二五・七	二六・七	二六・四	二六・四
濕度	八六%	八二%	九六	九六
降雨量	九七	九六	九五	九六
最低	六四	五九	五九	五九

スマランニ於ケル平均降雨量(耗)及平均降雨日數

月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年總計
降雨量	三六七	三三三	三三九	一九七	一七七	八三	五五	五九	九二	一三三	一九七	三六一	二、七〇〇
降雨日數	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

蘭印ノ棉花

- 降雨量、氣温等棉作ニ好適。
- 濕度ハ高キニ過グ。
- 特ニ冷温期間ナケレバ、土壤中ノ害虫ヲ驅除スル事困難。
- 勞働力ハ豊富ナリ。

爪哇島ノ**バイデンゾルグ**ニハ政府經營ノ農事試驗所アリ。猫額大ノ土地ニ申譯的ニ棉花ノ試栽ヲ行ナツテ居ル。

(ロ) **バレンバン**地方(**スマトラ**島東南部)ノ棉花栽培

爪哇ニ次グ棉花ノ産額ヲ有ス。同地方ハ一九一二年及一九一三年頃ガ棉花栽培ノ最盛期デアツタ。當時ハ實棉約十萬擔ノ輸出ヲ見タ程デアツタガ、其後相次グ旱魃ヤ棉價暴落等デ、ソノ産額ハ激減シタガ近時再ビ盛り返シテ一九三九年度ハ實棉五萬擔ヲ輸出シタ。

土人ハ主トシテ水田ニ米ノ裏作トシテ栽培ヲスル様ダ。

氣候其他ノ條件モ爪哇ノ棉作地方ト酷似シテ居ル。唯勞働力ハ爪哇程豊富デハナイ故、大規模ニ植付ヲヤロウトスルニハ先ヅコノ點カラ考ヘナクテハナルマイ。棉作りガ引合ハナイ時ハ、土人ハ栽培容易ナ胡麻ノ植付等ニ移行スルノガ多ク見受ケラレル。

バレンバン地方ノ平均降雨量(耗)及平均降雨日數

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年總計
三九三	三九四	三九二	三九四	一八八	二九	九六	一〇六	一一五	三〇四	三七〇	三三三	二、五八〇
												一六・八

(ハ) **セレベス**島**ミナハサ州**ニ於ケル棉花栽培

多年性ノ棉樹ヨリ採レル在來種モアレドモ特筆スベキ程ノ事ナク、唯コレニ**ヒント**ヲ得テ昭和九年(一九三四年)宮地貫道氏ト言ヘル人一年性ノ棉花栽培ヲ思ヒ立チ先ヅ**ブートン**ニテ支那人所有ノ森林地ヲ借入レ之ヲ開拓シ、米棉種及其他ノ品種ノ栽培ヲ試ミ其試驗ニ成功スルヤ土人ニ種子ヲ無料デ分チ棉花栽培ヲ奨勵シ、穫リ入レタ棉花ハ皆買入レテヤツテ日本ヘ輸出シタノデアル。其後同氏ハ**メナド**市郊外ニ居住シ此處デモ棉花栽培ヲ研究シナガラ、他方土人ニ棉花ノ栽培ヲ奨勵シテ漸次擴張シテ行ツタガ、昭和十四年頃(一九三九年)**メナド**ヲ引揚ゲ日本ニ歸リ其後、同氏ノ勸誘デ小林常八氏ガ一度既ニ失敗シタ棉作ヲ再度試ムコトヲ決心シテ、日本棉花栽培協會ノ後援ノ下ニ試作ヲ開始シ、數棉季ノ後同地ニ適スル紡績用棉種ガ南米**アツカラ**種ナルコトヲ發見、漸次大規模増産ヲ目指シテ種々劃策中今回ノ大東亞戰爭トナリ、計畫半バニシテ一時中止ノ止ムナキニ至ル。同氏ノ報告ハ蘭印棉花ニ關スル文献洵ニ寥寥タル現在、同地方棉作ニ關シ有益ノモノト思ハレル故左ニ抄録スル。

- (位) 置) 棉作地帯トシテ好適ナルハ**ミナハサ州**中央高原地帯海拔九〇〇米。
- (土) 質) 火山灰ト腐植質ヨリ成ル砂質壤土。

(氣温及濕度) 氣温ハ一年ヲ通ジテ殆ンド變化ナク華氏七〇度前後、濕度年平均八二・〇四%
 (風) 十二月末ヨリ一月始メ六月廿日ヨリ七月始メノ季節風ノ轉換期ハ烈風強雨ヲ伴フガ其レ以外ハ和風
 (降雨量) 一九三九年―四〇年二ヶ年平均一、九六四耗
 (降雨日數) 百六十一日

○セレベス島ミナハサ州ノ一九三九、四〇年二ヶ年平均各月別降雨量及降雨日數

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
降雨量	二四・四	二七・一	一八九・三	三九五・九	二五七・三	三三八・三	二二七・九	六二・三	四二・〇	七二・〇	一九一・〇	六・三
降雨日數	二	一八	二四	二六	二四	一九	二	一〇	五	六	一三	一六

○セレベス島ミナハサ州氣温及濕度表 (一九四〇年度)

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
平均氣温	七・一〇	七・九三	七・〇〇	七・五八	七〇・九三	六九・六五	六八・五〇	六九・九〇	七〇・三三	七〇・六一	七二・七七	七〇・三三
平均濕度	七六・四四%	八・三六	八・三三	八三・三八	八七・二	八六・七三	八四・四	七三・〇〇	七五・八三	七四・三六	七九・九一	八三・〇四

(播種) 種) 二月中旬迄ニスル、一列點播、畦間一メートル、株間〇・五〇メートル。
 (棉種) 在來改良棉種ノ外ニ陸地棉アツカラ種ガ好適。

(除草、中耕、培土) 除草前後六回、中耕、培土各四回

(間引) 三回

(肥料) 遣ラズ

(害虫其他) 呀蟲ノ發生ヲ見タガネオトン五〇〇倍液一回散布デ死滅。

播種期ヨリ發芽期間野鼠ガ出テ種子ヲ食ヒ盡ス故豫メコレヲ撲滅スルヲ要ス。

(收穫率) 英反當リ實棉四・八擔、繰棉ニシテ一・六擔。

(結論) セレベス島ノ高原地ハ棉花栽培ニ好適ナル氣象條件ヲ有ス。

勞力モ相當アリ、シカモ土人ノ性質純良、試験的ニハ經濟的ニモ立派ニ引合フコトヲ立證シ得タ。今後ノ問題トシテ殘サレテルモノハ大規模農園企業トシテ果シテ成功可能ナルカ否カノ點。

(ニ) ニューギニアニ於ケル棉花栽培

蘭印政府ノ報告ニヨレバ、一九〇五年フアクフアク産ノ棉花見本ガ和蘭本國デ良質ノモノナルコトガ立證セラレテヨリコレニ力ヲ得テ棉花栽培ヲナシタガ間モナク失敗、一九三四年イフアルニ於テ和蘭人移民ガ棉作ヲナシ成績良好デアツタガ翌年續イテ栽培シタ處見事失敗シタ。斯クテ「ニューギニヤハ棉作ニハ適セズ」ト言ハレテアルガ、ソノ原因ハ乾雨季一定セス、降雨狀態非常ニ不規則デアルノト、害虫ノ繁殖著シキ事ニヨル。

最近ニ至リ即一九三八年南洋興發會社ガ六〇〇ヘクタールノ農園ヲ經營シ、矢張り虫害ノ爲メ多イニ惱ムダトノ事

デアルガ、詳細ハ分ラヌ。

(ホ) **チモール島ノ棉花栽培**

蘭印政府ノ棉花農場アリ、種々試験栽培ヲナス。

六、結論 蘭印ハ棉花栽培ニ向ケカ

以上大體蘭印ニ於ケル棉花栽培ノ現状ヲ述ベタ譯ダガ、コレニ依ツテ見レバ現在迄ノ蘭印棉花栽培ハ在來棉種ヲ中心ニゴク小規模ノ土人耕作デアツテ、國際棉花產額三千萬俵ノ中ノ一萬俵トイフ九牛ノ一毛的存在ニ過ギナカツタノダガ、併シ現在ハ纖維資源不足ノ大東亞共榮圈ノ重要ナル一環トシテ、蘭印ヲ考ヘネバナラス。然ル時ハ假令一萬俵ノ小額デモ在來棉ガ出來ルトイフ事實ハ非常ナ強味デ、上述ノ各地方ガ兎ニ角棉作ノ適地デアルト言フ事ハ一應ハ考ヘラレルノデアル。

唯、今後此等ノ地方ヲ中心トシテ、大規模ノ棉作ヲ行ヒ共榮圈内ノ重要ナル棉花供給地ノ一ツトシテノ可能性ヲ有スルカ否カト言フ事ニナルト其レハ今後ニ遺サレタ問題デ我々ハ之ニ就テハ凡有ル角度カラ考究セネバナラス。今左ニ私見ヲ述ベテ研究ノ一端ニ資セン。

(イ) **氣象的條件**

上述ノ棉作地帯ハ大體乾雨季ノ區別ハアリ。氣溫モ適度。降雨量モ左シテ過多ナラス。棉作ニ時トシテ恐ルベキ被害ヲ與ヘル暴風雨モ年ニ二回、貿易風ノ轉換期ニ襲フノヲ常トスル故コノ季間ヲ注意シタラ宜イ。

(ロ) **勞 力**

爪哇ハ世界第一ノ人口密度ヲ有スルカラ勞力ハ豊富。

スマトラ、セレベス等人口密度ハ一平方料當リ各一七人、二二人トナツテ居ルガ、コレハ島全體カラ見タ密度デアツテ、實際棉ノ出來ル地方ハコレヨリ稠密ダガ、併シ大規模農園式ニ棉作ヲ増大セントスルニハ恐ラク土着民許リデハ充分ナラズ、爪哇當リカラ多數ノ土人農作勞働者ヲ移入スル必要ガアロウ。コレハ非常ニ經費ヲ要スル仕事第一彼等土人ガ住メル様ナ設備ヲセネバナラス、勢ヒ生産費モ土着ノ土人ヲ使フヨリ遙カニ嵩ム。ソレニ既述シタ通り土人ハ宗教上、風俗上ノ點カラモヨクノ事ガナケレバ、故郷ヲ離レテ他島ニ移住スルコトハ好マス。而モ一日四、五時間働ケバ生活スルコトガ出來ル惠マレタル環境ニ於カレテ居ル彼等ハ、性來從順デハアルガ懶惰デアル。酷熱ノ炎天下、十數時間ノ強力勞働ヲ必要トスル未開地開墾トイフ様ナ仕事ニ果シテ彼等ヲ移入シテ成功スルカ否カハ大イニ研究ヲ要スル事ダト思フ。

(ハ) **土 地**

爪哇ノ農耕地ハ既ニ飽和状態ニ達シ、コレ以上開拓スベキ可耕地ハ非常ニ少ナイ。殊ニ棉作可能ノ地帯ハ砂糖地帯ト同ジク乾雨季ノ判然トセル東部地方デ、**ゴム**ノ出來ル濕潤ニシテ乾雨季ノ區別ノ判然セヌ西部地方ハ不適デアル。ソコデ爪哇ニ於テ棉作ヲ増大セントスレバ、大東亞共榮圈内デ供給過剩トナル砂糖ノ甘蔗地帯ヲ或ル程度棉作ニ廻シタラドウカトイフ議論ガ生ジテ來ル。

爪哇ノ砂糖(甘藷)植付面積ハ五十萬英反、産額ハ最近百六十萬噸ヲ上下シテ居ルガ、本來年産三百萬噸ノ實力ハ有ツテ居ル。ソレニ日本ノ一三〇萬噸、比律賓ノ一〇〇萬噸、支那ノ四〇萬噸等ガ大東亞共榮圈ノ主要ナル砂糖生産地デ、其他ヲ含メテ共榮圈砂糖生産高總計四百五十萬噸、コレニ對シ共榮圈推定消費高二百五十萬噸、差引過剩二百萬噸。

其故ニ爪哇ノ五十萬英反ノ内棉作ニ幾分カ廻サウト思ヘバ出來ヌ事モナイガ、併シ爪哇甘蔗ノ收穫率ハ世界無比デ一英反當リ四・四噸デ比律賓ノ二倍故、能率ノ點カラ見レバ爪哇ノ耕地ヲ殘シテ比律賓ノ耕地ヲ棉作ニ廻シタ方方宜イ様デアアルガ、然ラバ比律賓ハ果シテ棉作ニ適當デアアルカトイフニコノ點ハ爪哇ヨリ疑問デアアル。

爪哇ハ既ニ在來棉三萬擔内外ノ産額ヲ有スルガ、比律賓ハ**アメリカ**ノ棉作抑壓政策モアツタガ在來棉種ノ多量ノ自然育生ガアツタノヲ聞カナイ。斯クテ爪哇ノ甘蔗植付地帯ヲ棉作ニ廻スベキカ、比律賓ノ夫レヲ犠牲ニスベキカ、或ハ兩地方共其幾分カラ棉作ニ改變スベキカ、コレハ今後大ニ實地研究シテ決定スベキ問題デアアル。而シテ爪哇ノ土地ハ肥沃ナルヲ以テ一英反當リ一擔位ノ收穫ヲ上ゲル事ハ少シ注意シテ耕作スレバ左程困難ナ事デアアルマイ。

スマトラノパレンバン地方、**セレベスノミナハサ**州地方等ハ棉作好適地ガ相當アラシイ(**セレベス**島丈ケデ小林常八氏ハ百萬町歩アルト言ツテ居ルガ、其半分ノ五十萬町歩アツタトシテモ前途有望デアアル)ガ、何分ニモ既述シタ様ニ如何ニシテ勞力ヲ得ルカノ點ヲ先ヅ研究セネバナルマイ。

(ニ) 濕氣多ク且寒冷期間ナキハ害虫ノ蕃殖ヲ助長ス。

棉作ニ虫害程恐ルベキモノハナイトハ一口ニ好ク言ハレル事ダ。世界最大ノ棉産國**アメリカ**ガ若イ棉ノ實ヤ葉ヲ食ヒ盡ス、**ポールウィーヴル**ノ驅除ノ爲メ年々歳々如何程ノ苦心ト巨費ヲ投ジテ居ルカ知ル人ゾ知ルデアアル。**アメリカ**ニ於テ寒イ冬ヲ越シテ春マデ生キ延ビル**ポールウィーヴル**(*Ball weevil*)ハ唯ノ五乃至一〇%、ソシテ斯ク生キ延ビタ雌雄一對ノ**ポールウィーヴル**ガ一棉季ニナント三百十萬匹ノ**ポールウィーヴル**トナツテ蕃殖スル事實ニ想到スル時、ソノ虫害ノ如何ニ恐ルベキカハ想像スルニ餘リアロウ。

蘭印ニハ越年スル此等害虫ノ大部分ヲ死滅サセル寒冷ノ冬ガ無ク又冬ガ無クトモ乾燥期間長ク續ケバ其乾燥ノ爲メニ害虫ノ生息ヲ不可能ナラシメルモノデアアルガ(印度、緬甸、埃及等ノ棉産地ハ寒波激冬ガ無いノニ害虫ノ爲メノ大被害ヲ餘リ聞カヌノハ冬中ノ天候ガ極メテ乾燥シテ居ル爲メデアアル)蘭印ハ通常此ノ二要素ニ缺ケテ居ルノデ、一度害虫ガ發生蕃殖シタナラバ、ソノ棉作ニ及ボス被害ノ程度ガ何處迄行クカ考ヘルダニ寒心ノ至リデアアル。

而モ蔓延力ノ強イ害虫ヲ驅除スル方法ハ上述ノ自然ノ力ヲ借リズニ人力ノミデハ非常ナル努力ト苦心トヲ必要トスル。

蘭印ノ年平均溫度八二%内外モ害虫ノ蕃殖力ヲ助長スルニハ不幸ニシテ理想的ト言ハネバナルマイ。

コノ點蘭印バカリデハナイガ冬ヲ知ラヌ溫度ノ高イ常夏ノ南方圈ニ棉作りヲ志ス者ノヨクノ注意ヲシテ豫メ其レニ對スル豫防策、驅除策、撲滅策ヲ考究シテ置クコトガ肝要デアアル。

蘭印ノ「カボツク」

(一) カボツク

カボツクノ原産地ハ南米デアルガ、蘭印ニ於テモ古クカラ栽培サレテ居ル。成長ノ迅速ナ喬木デ熟實ノ際ニ短期間落葉スル。結實ハ年二回、蕃殖力極メテ旺盛デ挿木ニヨリ容易ニ生育スル故、好ンデ土人ニ栽植サレ、田ノ畔ヤ道路ノ傍等ニ盛ンニ植エラレル。枝ハ稍水平ニ輪生スル特性ガアル。

カボツクハコノカボツクノ樹(爪哇デハラント)ト呼ブノ實カラ取レル白イ棉様ノ纖維デアル。

カボツクノ木ニハ品種ガ多ク、爪哇ノ普通種ハ三、四年デ結實スル。

實ハ長楕圓形ノ莢デ長サ四、五寸、初メハ綠色ヲ呈スルガ日ヲ經ルニ從ヒ褐色トナリ其頃ニ採取スル。採取ノ方法ハ竿頭ニ鎌ヲツケテ木ニ登リ、鎌デ莢カラ切り落シテ集メル。之ヲ工場ニ運ンデ莢ヲ割リカボツクヲ取り出ス。ソレカラ直接日光ニ當テ、乾燥セシメ、棒デ打返シテ纖維ヲ分散シツ、膨脹サセル。而シテ充分ニ乾燥シテカラ選別スル一擔ノカボツクヲ得ルニハ約一五、〇〇〇個ノ莢實ヲ割ラナクテハナラヌ。カボツクノ樹ハ土質ヲ選バヌガ乾雨兩期ノ判然トシタ地方ノ栽培ニ適スル。普通一本ノカボツク樹ノ收穫量ハ二乃至三カチニ過ギナイ。(一カチハ百六十五匁)

(二) カボツク纖維ノ長所、短所ト其用途

長所 纖維ハ強キ耐久性ノ彈力ヲ有シ輕ク軟カク、且容易ニ水ニハ濡レズ。浮揚力頗ル大デ普通四十倍ト言フ。

短所 纖維間ノ絡合性ハ少ナイ。纖維ノ強靱性ハ棉等ニ比ベテ遙カニ劣ル。此ノ二ツノ短所ノ爲メ從來紡績ニハ不適トサレテ居タガ、最近日本ノ紡績界ハコノ短所ヲ補ナツテカボツク纖維ノ紡績試験ニ成功シタ。

用途 カボツク纖維ノ長所ヲ生カシテ古クカラクツシヨ、枕、敷蒲團、椅子等ノ填心用トシテ珍重サレ又水中救命具ノ製造ニハ缺クベカラザル原料トサレテ居ル。カボツクノ種子ハ壓搾シテ油ヲ採リ食用油ニ供セラ

レ、又近來機械油、特ニ飛行機用ノ潤滑油ニ盛ニ使用セラレル様ニナツタ。

(三) カボツク栽培ト其植付面積

カボツクハ栽培極メテ容易ナルヲ以テ、土人ノ副業トシテ盛ニ栽植セラレ、全生産量ノ九割ガ實ニ彼等ノ手ヲ經テ產出セラル。大規模ノ純農園ニ於テノ栽培ハ餘リ多ク見ナイガ、珈琲、カ、オノ蔭樹トシテ多ク植付ケラレテ居ル。

大部分爪哇デ栽培セラレ、シカモ乾雨季ノ判然トセル東部及中部地方ガ適地デアル。熟果期ニ雨ガ多イ時ハ纖維ノ光澤ハ褪セテ品質ハ低下スル。外領ニ於テハ「マカツサル」「バリ」「ロンボク」等ガ其産地トシテ數ヘラレル。

少シ統計ハ古イガ一九三〇年度農園ノ植付面積總計一七、六六四ヘクタール。爪哇デ農園ノ植付面積ノ多イ地方ハ

ベカロンガン

三、四〇〇ヘクタール

スマラン

二、八〇〇

蘭印ノカボツク

ブリタル	一、六〇〇タ
クラワン	一、五〇〇タ
東部ブリアンガン	一、三〇〇タ
チエムベル	一、二〇〇タ

然シ最近ノ農園植付面積ハコレヨリハ四割方ノ増加デ二五、〇〇〇ヘクタールハアル。

土人ノカボツク植付面積ハ統計ガナイ故知ル由モナイガ、蘭印全生産ノ唯一割ヲ占メル農園ノ植付面積ガ二五、〇〇〇ヘクタールデアラカラ土人ノ植付面積ハ少ナクトモ二〇萬ヘクタール以上ハアルベク土人ハ田ノ畔、道傍、家側等至ル處ニ植エテ居ル故、統計デハトモ現シ切レヌノデアル。

(四) カボツクノ生産高

最近ノ生産高ハ三萬噸ニ上ルト言ハレテ居ル。蘭印ニハ生産統計ハ無ク輸出量等ヨリ推測スルノデアル。世界第一ノ産額ヲ有シ實ニ全世界ノ八割内外ハ蘭印ニ於テ産出スルノデアル。土人ノ自家消費ガ非常ニ多ク「全土人ハカボツクノ上ニ座シ眠ル」ト言ハレテ居ル位デアル。

(五) カボツクノ輸出高

○カボツク纖維輸出高表 (單位 噸)

年次	農園生産高	%	土人生産高	%	總輸出高
一九二七	一、三八五	七・〇	一八、三八四	九三・〇	一九、七六九

○仕向國別カボツク輸出高表 (單位 數量 噸 價額 千盾)

國別	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年
日本	二四三	三四三	四〇〇	三四三	四三六
米	七、八三四	七、八三〇	七、〇三二	六、五六九	八、八五三
和	四、四六八	五、三四三	五、八九三	五、三〇八	六、一四一
濠洲	三、八〇四	四、〇二五	四、七六六	四、〇九三	三、八七六
英	三、八七	四、二二	二六五	一五三	三三三
其	一、三九一	一、九八八	一、八九七	一、三六七	一、三四一
合	一八、〇二七	一九、七六九	一九、四六二	一七、七三一	二一、〇六四

最近ノ輸出仕向國順位ハ米國、濠洲、和蘭トナリ、日本ニハ僅カ全輸出量ノ二%ガ輸出サレタ。

(六) カボツクノ紡績纖維トシテノ價値

カボツク纖維ハ絡合性不足シ且強力少ナイ爲メ、從來ヨリ紡績糸ニハ不向ト言フ事ニナツテ居タガ、日本纖維化學ノ倦マザル研究ノ結果、遂ニ最近ニ至リカボツク纖維ニ五〇%ノ他ノ纖維ヲ混合スルコトニヨリ、ヨク二ツノ弱點ヲ

補ナヒ純綿糸ニ比シ殆ンド大差ナイ糸ヲ紡出スル試験ニ成功シタ。而シテソノ紡糸ハ二〇番手位迄紡出可能ト言ハレ
ネル地等ノ織込ニモ成功シタ由デアアル。

若シ上記試験ガ今後立派ニ經濟的大量生産ニ適用出來ルコトヲ立證シ得タナラバ、紡績纖維資源ノ不足ニ惱ミツ、
アル東亞共榮圈ノ需要スル綿糸布一切ヲ賄フ立場ニ置カレタ我日本ニトツテハ洵ニ天來ノ福音トモ言フベキダ。

蘭印ノカボツク現在生産高三萬噸ハ約五十萬擔ニ相當スル。而モ栽培極メテ容易ノ植物ノ事ナレバ、必要ニ應ジテ
ハソノ倍額百萬擔位ニ増加スル事ハサシテ困難ノ事デハナイト思ハレル。

我々ハ躍進日本ノ紡績界ガ此ノ方面ニ於テモ近キ將來ニ於テ必ズヤ耀ヤカシイ成果ヲ得ルナラン事ヲ信ジテ其日ノ
近キヲ鶴首スルモノデアアル。

蘭印ノ「シザル」麻(サイザル麻)

一、「シザル」ト「カンタラ」

「アゲブ」纖維ハ今世紀ニ入ツテ新ラシク發見サレタ纖維デ原產地ハ南米デアアル。コノ纖維ノ中最モ廣ク栽培サレ
テ居ルノガ「シザル」デ、モトメキシコ國ユカタン州唯一ノ港シザル(Sisal)ヲ經由シテ盛ニ輸出サレタモノ故、其
港名ヲ採ツテ斯クハ呼バレル様ニナツタ。栽培極メテ容易デ苗ヲ移植後四年目カラ收穫サレ十年内外ノ壽命デ終ル。

「シザル」ハ葉カラ纖維ヲトル。シザル麻ガコレデ纖維ハ純白、耐久力ニ富ミ水分ヲ吸收スル事ガ少ナイ。コノ特

長ヲ利用シテ繩綱トシテ荷造リ用ニ供セラレル。又近時ハコレデ麻袋類ヲ製造シ時ニ米、砂糖、珈琲等食品ノ包裝
用ニ使用セラル。

「シザル」ノ一種「カンタラ」ハ高地栽培ニ適シ纖維ノ含有量ガ「シザル」ヨリ多イ。

二、「シザル」ノ植付面積ト産額

「シザル」ハ大規模農園企業トシテ爪哇及スマトラ東海岸ニ於テ栽植セラレ現ニ三十有餘ノ農園(エステート)ガ
二萬ヘクタールノ栽植地ヲ有シテ生産ニ從事シテ居ル。

政府ノ生産統計ガアルガコレハ極メテ不完全ノモノデ、毎年ノシザル輸出高ガ統計ニ表ハレタ生産高ノ倍額以上ニ
上ルコトハ普通ノ事デアアル。コレハ既ニ屢々述べタ様ニ土人ノ生産高ガ、判然セナイ爲ニ統計ニ載ラナイノト今一ツ
「スマトラ」東海岸ニ廣大ナル「シザル」農園ヲ有スル「ハーフェア」(拓殖銀行ノ一種)ガ其生産數字ヲ一切公表セ
ナイ爲デアアル。

ソレ故「シザル」生産高ハ矢張り毎年ノ輸出高ヨリ推測スルヨリ外ニ途ハナイノダガ、近年「シザル」輸出ハ著數
増加シ一九三九年ニハ十萬六千噸ノ輸出ヲ見タ故其植付面積モ歐人農園、土人栽植地全部ヲ合セテ、九萬ヘクタール
以上ニハ上ルデアラウシ、生産高總計モ優ニ十一、二萬噸ニハ達シテ居ルコト、思ハレル。

蘭印ノ「シザル」生産高ハメキシコニ次ギ世界第二位ヲ占メテ居ル。

三、「シザル」麻ト「カンタラ」麻ノ輸出

○「シザル」麻ト「カンタラ」麻輸出高比較表（單位題）

年次	爪哇及マツラ	外 スマトラ東海岸	蘭印合計
一九二六年	一六、四八九	二一、八三九	三八、三二八
一九二七年	一七、九九四	二八、一九〇	四六、一三四
一九二八年	二二、七〇二	二七、六〇四	五〇、三〇六
一九二九年	二五、三二六	三三、三六〇	五八、六八六
一九三〇年	二三、一六四	四二、五〇二	六五、六六六

○仕向國別シザル麻及カンタラ麻輸出高表（單位數量—題 金額千盾）

仕向國	一九二六年		一九二七年		一九二八年		一九二九年		一九三〇年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
日本	一〇五	四一	一〇九	四一	一五一	五四	三八二	一〇一	一三六	四一
米國	一八、五五四	七、二六四	一八、三五六	七、一六五	二〇、一〇〇	七、一三三	二六、一四九	九、二九六	二九、四九六	一〇、四一六
和蘭	一三、三三三	五、二二三	一七、二二三	六、六九四	一五、七九九	五、六〇三	一五、九三六	五、六六四	一八、七七七	六、三八九
獨逸	一、七六五	六九〇	三、六九四	一、四一八	六、八九九	三、三七一	五、八九六	二、〇六六	六、五七六	二、二七一
英洲	二、八八五	一、一三七	三、四二二	一、三三六	三、六七八	一、二七六	四、〇三七	一、八八一	三、〇三四	一、〇一一
其他	八四一	三三三	四六七	一八五	四二七	一五〇	九四七	三三二	二四七	八五一
合計	三六、三三九	一四、九三二	四六、一三四	一七、九六八	五三、三〇六	一七、七五七	五八、六八六	三〇、五五二	六五、六六六	二二、八九三

一九三七年年度 輸出總量ハ 約八五、〇〇〇題

一九三九年年度

約一〇六、〇〇〇題

蘭印ノ「シザル」麻輸出高ハ世界總輸出高ノ二〇%内外ヲ占メテ居ル。

蘭印ノ「ローゼル」麻

（附 黃麻新種ハルマヘーラ種）

ローゼルハ黃麻（ジユート）ノ代用作物トシテ爪哇ニテ栽植ニ成功ヲ見ツ、アル處ノ一年性草木デ、中部爪哇當リガ適地トサレ現ニ農園企業トシテ大規模ニ栽培サル。

播種カラ收穫マデ六、七ヶ月ヲ要スルノガコノローゼルノ缺點デ之ガ爲メニ他ノ作物トノ輪作ガ著敷制肘セラレル。黃麻ト同ジクソノ育生ニハ多量ノ濕氣ヲ必要トスルガ、而シ一面ニ於テ黃麻ニ較ベテ遙カニ乾燥ニ耐ヘル力ガ強イトイフ長所ヲ有シテ居ル故、黃麻不適ノ畑ニモ栽培可能デア。爪哇中部ノ乾燥季ニ栽植セラレルノモ之ガ爲メデア。

ローゼルハ莖ノ長サ三、四米ニ延ビ、播種後七ヶ月位ニシテ收穫サレ、陌當リ纖維收穫量ハ一、五〇〇斤程度デア。莖ヲ刈リトリ水ニ浸シテ剥皮ヲ容易ナラシメタ後剥皮シタモノガ纖維トナルノデア。用途ハ主トシテ黃麻ノ代用トシテ麻袋製造用ニ供セラル。現在ノ產出量ハ不明ダガ一九三〇年度ノ農園生産量ハ僅カニ十一題デアツタ。黃麻ハ東亞共榮圈内ニ於テ自給ノ出來ヌ纖維ノ一ツデア。

一九三七年東亞共榮圈内ニ於ケル黃麻生産量ハ

蘭印ノローゼル麻

産地	面積(陌)	生産(越)	陌當り收穫量(越)
臺灣	五、〇〇〇	九、〇〇〇	一・六八 (二、八〇〇斤)
佛印安南	二〇〇	一	〇・八〇 (一、三〇〇斤)
トキン	三〇〇	二〇〇	〇・七〇 (一、一六〇斤)
日本内地	一、〇〇〇	一、二〇〇	一・八九 (三、一〇〇斤)
合計	六、五〇〇	一〇、四〇〇	

此ノ外滿洲ニケナフ青麻合計一萬越位ノ生産ガアツテ黄麻同様ニ袋用ニ供セラレテ居ル。
之ニ對シ共榮園ノ黄麻必要數量ヲ一九三七年度ノ輸入状態ニヨツテ示スト次ノ様ニナル。

一九三七年度黄麻輸入數量

支那	一、八七〇越
佛印	三七〇々
滿洲	一〇、〇四〇々
臺灣	三、二〇〇々
日本	一九、二八〇々
蘭印	?
合計	三四、七六〇々

此ノ外ニガンニ一袋トシテ輸入ヲ見ルモノガ相當量ニ達スル筈デアアル。例ヘバ蘭印デハ一九三七年度一九、五〇〇、〇〇〇個ノ輸入アリ、一袋ハ二封度ノ黄麻ガ要ルトスレバ上記個數ハ原料黄麻換算約一七、七〇〇越ニ當ル。泰國、佛印ハガンニ一袋トシテドノ位輸入スルカ不明ダガ米ノ包装用トシテ相當量ノ輸入アルベク、今假リニ原料換算二、

〇〇〇萬封度約九、〇〇〇越ノ黄麻ヲ輸入スルトスレバ、共榮園内差引不足量總計約五一、〇〇〇越トナル。而シテ是等ノ供給地ハ全部英領印度デアアル。印度ハ周知ノ通り一六〇萬越ノ世界黄麻總產高ノ大部分ヲ獨占的ニ生産シテ居ル。

斯クテ黄麻ハ共榮園内ニ於テ五一、〇〇〇越不足スル勘定トナル故、共榮園内ニ於テ黄麻栽培ノ適地物色及其代用纖維ノ栽培ト言フ事ハ刻下ノ急務ナノデアアル。

此ノ意味ニ於テ黄麻ノ代用纖維トシテ既ニ其栽植ニ成功シテ居ル爪哇ノローゼル麻栽培ハ、今後益々増植ノ要アル可ク、幸ニローゼル麻栽培適地トシテ中部爪哇ノ外ニ西部爪哇、スマトラ東海岸等數多舉ゲル事ガ出來ル故、今後ノ増産ハ期待ツベキモノガアル。

因ニ蘭印ニ於テハ今迄黄麻ノ栽培ハ總テ不成功ニ終ツタ。ソノ理由トシテハ種々舉ゲ得ルガ蘭印ガ赤道地帯下ニアリ、日照時間(一日ノ日出カラ日没マデノ時間ヲ言フ)ガ常ニ十三時間以内ニアル事ガ主要ナル原因ノ一ツデ、黄麻ハソノ主産地印度ベンガル州ノ如ク緯度ハ北緯二十四、五度ノ比較的高緯度デ夏期ノ日照時間十三時間以上ノ處ガ最も好適デ、緯度ガ低クナリ從ツテ日照時間モ短カク、四季ノ氣候ガ無變化ノ蘭印ノ様ナ處ハ黄麻栽培ニハ向カヌノデアアル。

唯、近年モルツカ群島中ノハルマヘラ島デ我同胞ガ黄麻ノ新種試植ニ成功シ、コレヲハルマヘラ種ト稱シテ之ナラ、蘭印ノ各地栽培ニ適スルト言ハレテ居ル。即「ハルマヘラ」種ハ日照時間十三時間以内デモ立派ニ成育スル新種ナノ

デ既ニニューギニア等デモソノ試植ニ成功シタ相デアル。而シテコノ新種「ハルマヘラ」ノ適地トシテハ前記ハルマヘラ、ニューギニア以外ニボルネオ、セレベス、スマトラ等ノ濕潤地帯ヲ舉ゲル事ガ出来、業界ハコノ新種「ハルマヘラ」ノ前途ニ多大ノ期待ヲ掛ケテ居ルノデアル。

蘭印ノ「マニラ」麻

マニラ麻ノ本場ハ其名ノ示ス如ク比律賓デアルガ、近年蘭印ニ於テモスマトラヲ中心トシテ大規模ニ農園企業トシテ栽培サレテ居ル様デアルガ、統計ガ無イ爲其數字ガ明カデ無イ。スマトラ東海岸ノハーフエア(拓植銀行ノ一種)ノ經營セルマニラ麻園ノ如キ年産額一二、〇〇〇噸以上ヲ有シ、又最近メダン附近ニ秘密裡ニカナリノ廣大ナル面積ニ栽培サレテ居ルトノ事デ、一説ニハ比律賓、ミンダナオノダバオノ産額ニモ拮抗スルトノ事ダガ、若シ其レガ眞ダトスレバ年産六、七萬噸ヲ下ラヌ大量トナル譯ダガ、何分ニモ前述ノ様ニ統計皆無ナノデ眞僞ノ程ハ判然セヌ。

マニラ麻ハ熱帯産ノ芭蕉ニ似タ「アバカ」ト稱スル植物ノ樹皮ノ纖維ヲ採取シタモノデ極メテ強靱デ海中ノ耐久力ニ非常ニ強イノデ、船舶用ノ綱索、漁網トシテ珍重セラレ又白色デ光澤ニ富ム故ニ麻眞田トシテ帽子ノ原料トモナル。アバカノ適地ハ一年中ノ雨量ノ分布ガ平均シテ居リ、風ノ無イ地味ノ肥エタ處ガ好イトサレテ居ル、年降雨量一、五〇〇耗以上ナラバ栽培可能トサレテ居ルガ最適雨量ハ年二、五〇〇耗前後デ、毎月最高三〇〇耗、最低一〇〇耗以内ノ雨量ガ理想的トサレテ居ル。氣温ハ攝氏二十五度ヨリ三十二、三度ヲ好トシ、最高三十七、八度最低二十一、二

度ヲ超エヌ事ヲ必要トスル。

アバカハ種苗植付後十四、五ヶ月ヲ經過スルト四、五本ノ幹ヲ生ズルガ、大體最初ノ收穫ガ開始サレルノハ植付後二ケ年後デアル。完全ニ成長スルト品種ノ違ヒニヨツテ種々異ナルモ一叢ニ就キ一五本乃至二五本ノ幹ヲ發生シ此等ノ幹ハ收穫期ニ達シタモノヨリ順次切倒サレ剥皮ノ後、機械ニ掛ケテ纖維トスルノデアル。而シテ八、九年目頃ヨリ收穫量ハ減少、二〇年乃至二五年後ニハ全然生産力ヲ失フノデアル。一陌當リ年産三〇〇乃至六〇〇噸ノ收穫量ガ普通デアル。

斯クテアバカニハ特定ノ出廻リ季トイフモノガ無ク一年中收穫サレル譯デアル。

世界ノマニラ麻ハ今迄比律賓ニ於テソノ生産ヲ獨占シテ居タト言ツテモ過言デナク、比律賓ガ一九〇〇年來マニラ麻輸出ニ於テ飛躍的發展ヲ示シテヨリ各國トモ競ツテ自國植民地ニ之ガ栽培ヲ試ミタガ何レモ失敗ニ終ツタノデアル即チ英國ハカルカッタ、マドラス、アンダマン諸島ニ於テ米國ハフロリダ州ニ、獨逸ハ東アフリカ植民地ニ夫々試植ヲナシタガ何レモ其ノ結果ノ見ルベキモノハ無カッタノデアル。

唯蘭印ノスマトラ、爪哇、及英領北ボルネオニ於テハ比律賓ヨリ種苗ヲ輸入シテ種々研究ノ結果遂ニ之ガ栽培ニ成功シタ。

現在比律賓ニ於ケルマニラ麻植付總面積約五十萬陌、其年産量一六乃至一八萬噸、其ノ内三、〇〇〇乃至四、〇〇〇噸ガ國內デ消費サレルノミデ残りハ全部輸出サレルノデアル。

而シテ主要ナル輸出先キハ米國ノ三三%、日本ノ二七%、英國ノ二二%デアツテ實ニ比律賓マニラ麻全輸出ノ八〇%以上ヲ之等三國ガ占メテ居タノデアル。

サレバ米國、英國ヘノ輸出ガ杜絶サレタ今日、東亞共榮圈内ニ於ケルマニラ麻需要ハ餘リニモ少量デ比律賓ノ現生産機構ヲ維持スル事ハ中々ニ困難ノ事ノ様ニモ思ハレルガ、併シ今後共榮圈内ニ於テ其豊富ナル物資ヲ圓滑ニ交流スルガ爲メニハ、現日本ノ有スル船舶總噸數ノ二倍三倍ハ是非共必要トスベク、船舶造船ハ國ヲ舉ゲテノ喫緊事デアリ此等ニ伴ウテマニラ麻等ノ需要モ一大躍進ヲ見ル事ハ明デ、加之我盟邦獨逸、伊太利ノマニラ麻需要モ何レハ我方デ滿シテヤラネバナラズ、彼レ此レ思ヒ合セルト、比律賓ノ生産量ガ目先多イト言ツテ左程心配スルニハ當ラナイト思ハレル。

斯クテスマトラヲ中心トスル蘭印ノマニラ麻生産地等モ餘リ目先ニ許リ捉ハレズニ、宜シク將來ノマニラ麻需要ト睨ミ合セテ適宜其生産量ヲ調整サルベキデアラウ。

参考ノ爲メ左ニ比律賓ノマニラ麻需給統計及輸出統計ヲ掲ゲテ置ク。

○比島マニラ麻年度別需給高 (單位千俵)

年次	前年在荷	生産量	合計	國內消費	輸出	合計	差引
一九三四年	一三八	一、四四一	一、五七九	二六	一、三七六	一、四〇二	一七七
一九三五年	一六〇	一、四八〇	一、六四〇	二六	一、四二二	一、四四九	一九一

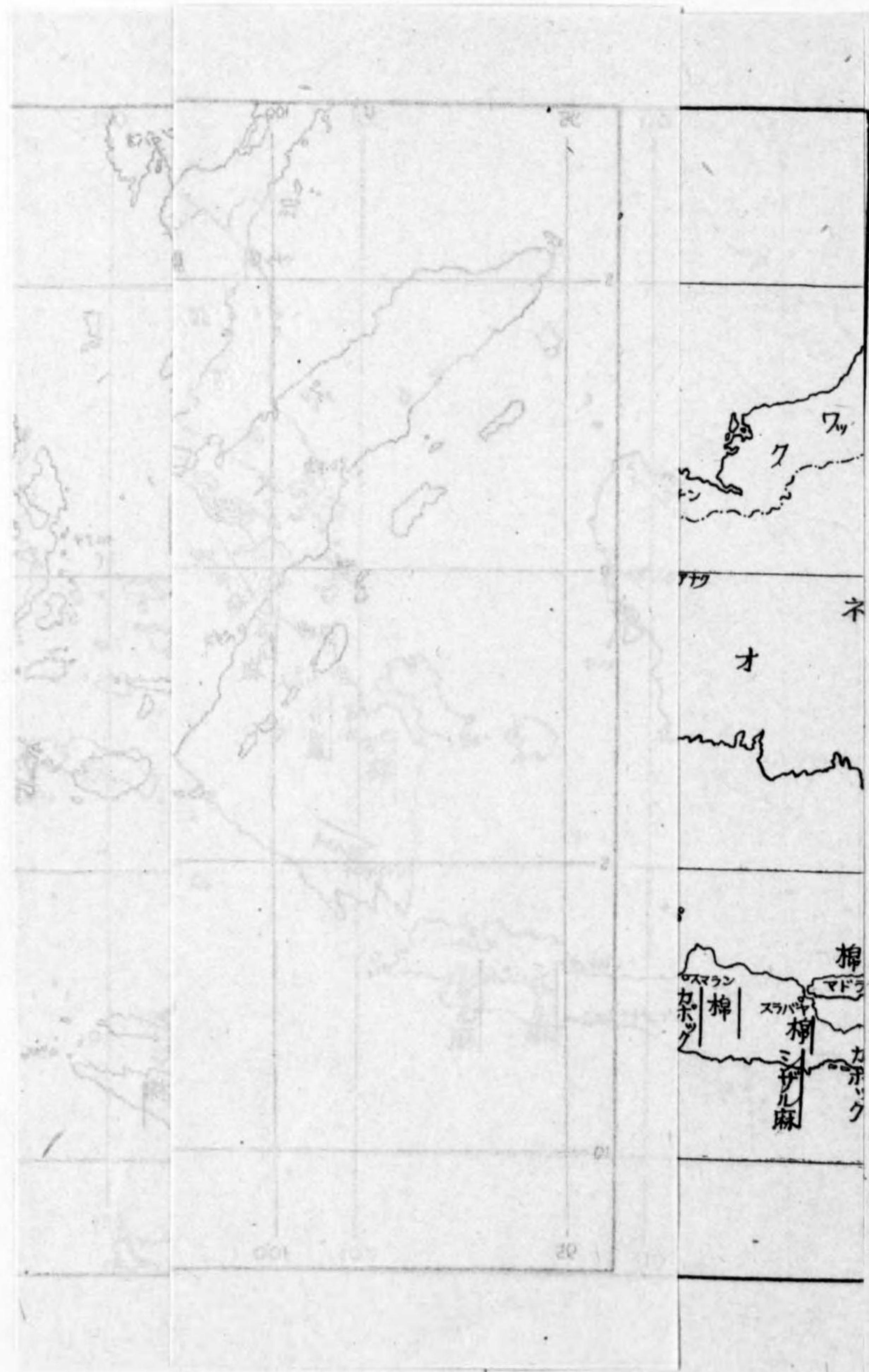
一九三六年	一九一	一、二九五	一、四八六	二六	一、三〇七	一、三三三	一五三
一九三七年	一四九	一、三二三	一、四七二	六	一、三一五	一、三二一	一五一
一九三八年	一五六	一、一五二	一、三〇八	一	一、一〇〇	一、一〇〇	二〇八

(註) マニラ麻一俵ハ風袋込ニ擔ノ重サアリ

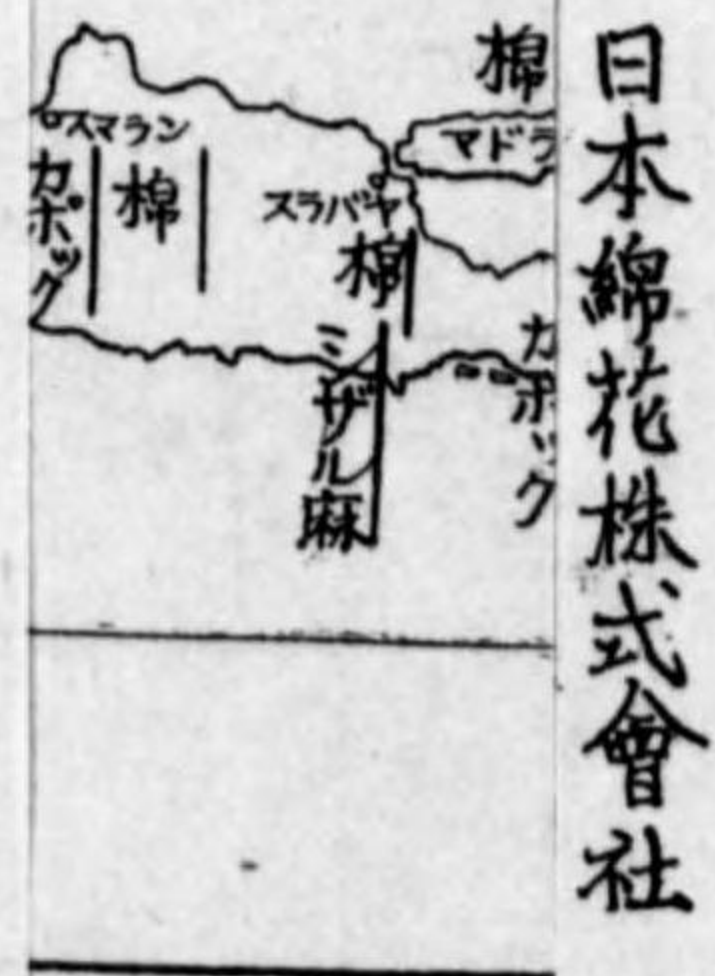
○比島マニラ麻各國別輸出額 (單位千比)

年次	米國	日本	英國	白耳義	獨逸	佛國	加奈陀
一九三五年	一〇、六七三	九、四九〇	七、五三五	九四六	八四二	六五〇	六〇三
一九三六年	七、六二二	六、二九九	四、八九九	五五九	四四七	四一一	四八六
一九三五年	五五三	四七一	三五四	二、〇六〇	三四、一七七		
一九三六年	四四八	二二九	一二九	一、四一九	二二、九四八		

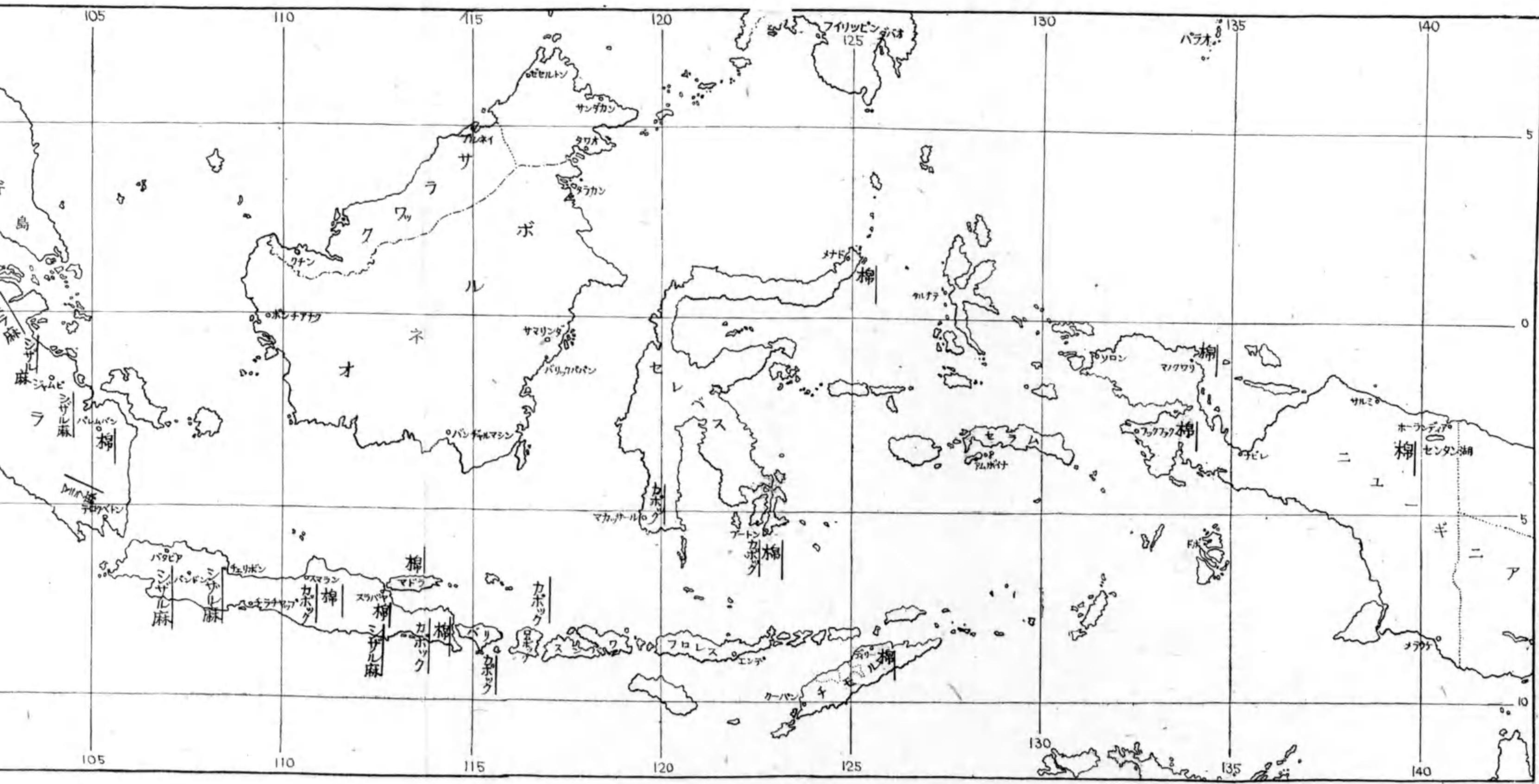




(南) 蘭印織維資源地帶圖



日本綿花株式会社



(荷) 蘭印織維資源地帯圖

日本綿花株式會社

濠洲ノ素描

前漢時濠洲之位置圖



日本地理學會



濠洲ノ素描

概 説

濠洲ハ西南太平洋上ニアル世界最少ノ大陸デ南回歸線ニ沿フテ、東西約二千四百哩南北平均約千二百哩（最長ハ一九七〇哩アリ）デ、面積約二百九十七萬五千平方哩アリ。本邦ノ約十一倍半弱ニ當ル。金鑛發見（一八六〇年後、著シク人口ノ増加ヲ示シタル現任ニテモ七百萬人ト稱セラレ密度ハ平方哩當リ二・三人ヲ示ス程度デ、極メテ稀薄デアル。一九〇一年英國ノ自治領トシテ六州ヨリ成ル聯邦制ヲ採リ英國代表ノ總監ノ下ニ上院下院内閣ヲ設ケテ自治ヲ行フ、全人口ノ九割以上ハ英人系ニテ占メ土人ノ**オーストラリヤ族**ハ漸域シ**タスマニヤ族**ハ絶滅シタ。

濠洲人ノ生活水準ハ歐洲人ノソレト殆ト同程度ニ高イ。之ハ低廉ナ亞細亞勞働力ヲ拒否スル、白濠政策ノ結果デ歐洲的勞働條件ノ下ニ生活シ得ルコトガ保證サレテ居ル爲メデアル。（一九一二年後英本國以外カラノ一切ノ移民ヲ禁止シテ居ル）

主要都市ハ密集居住地域ノ中心デアル。總人口ノ六四%ハ都市ニ集中シ工業的指導力ヲ把握シテ居ルガ、社會的一般的問題ニナルト矢張り地方農村住民ノ指導力ガ大キイ、**ブリスベーン**ト**阿德レード**ヲ結ブ線ヲ引ケバ面積ノ八七%

ト一三%トナリ、コノ面積一三%ノ地域ニ全人口ノ八一%ガ居住シテ居ル。斯ク東南部地域ニ人口ガ集中シタ原因トシテハコノ地域ガ主要農業地區デアルト勿論ナルガ、降雨及ビ氣温ガ移住白人種ノ故郷出身地ニ酷似シテ居ル點モ看ノガセナイ、故ニ亞細亞人ノ移住即チ白濠主義ノ崩潰シタ曉ニハ人口増加ハ議論ノ餘地ナク現在ノ六乃至七倍ニナルコトハ意見ノ一致スル處デアル。

鐵道ノ敷設ハ各州ノ政治的或ハ地方的ナ局部的觀點ニ依ツテ實施サレタ、メ綜合的ナ規模カラノ交通機關ノ整備統一ハ急務デアル。

人口密度ノ稀薄カツノ國ノ經濟機構ニ及ボス關係トシテハ

一、廣大ナ土地ヲ少數ノ人口デ利用スル牧畜業ニ有利ナ條件ヲ與ヘ且ツ

二、耕作農業ヲ大規模ニ機械化セシメル結果人口ノ都市集中ヲ起ス而シテ

三、勞働力ノ不足ハ資本ノ流入ヲ進捗セシメ、濠洲ノ如ク海外資本ノ流入ハ其利子負擔ノ累増ヲ來シ延テハ投資國

(英本國)ヘノ依存ヲ増大スル。

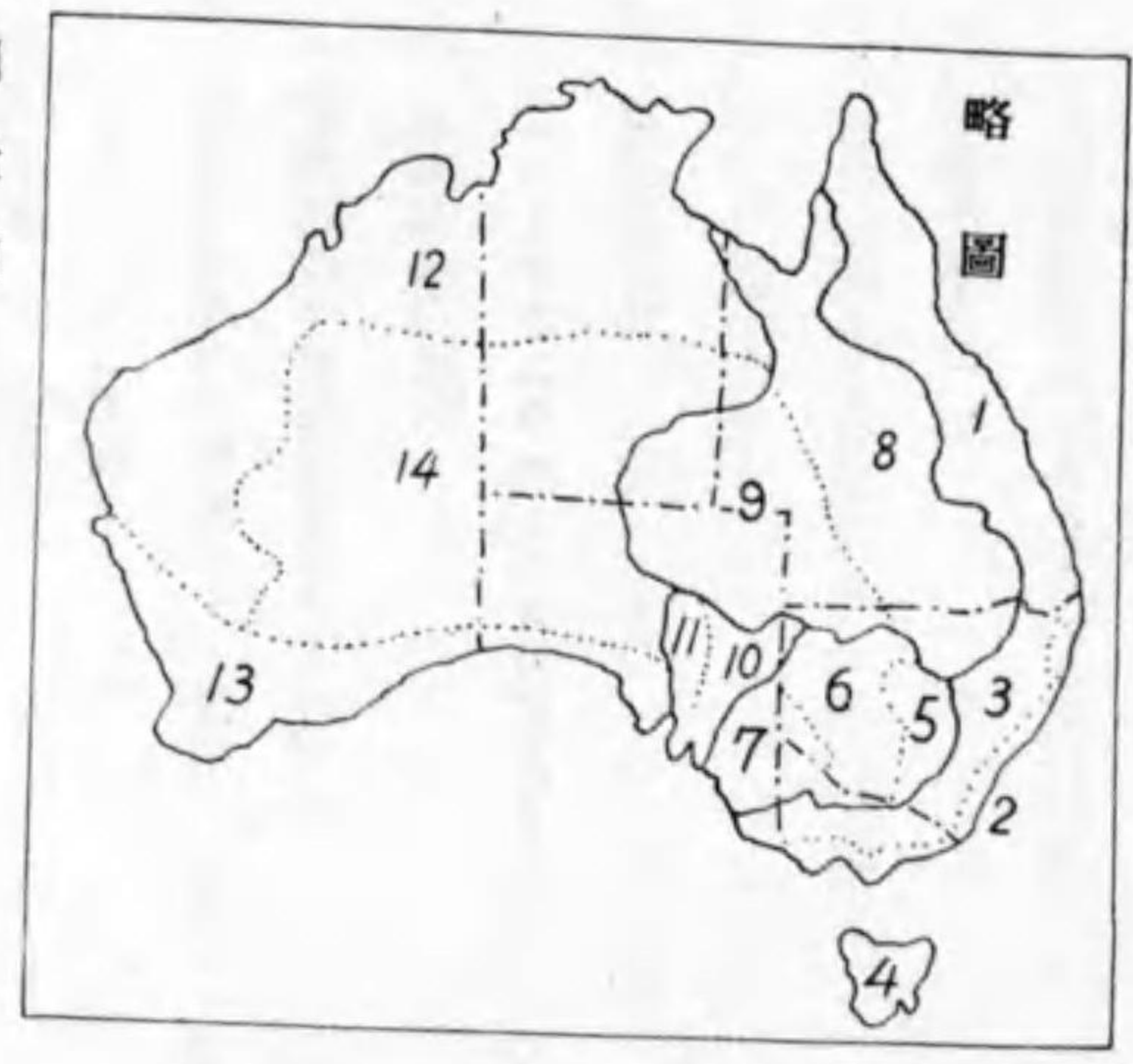
四、ソノ土地ガ天資物産ヲ豊富ニ享有スル限り各個人所得ハ高水準ヲ保持シ得ル。

等ノ諸條件ヲ看ル、之ハ濠洲經濟ヲ看ル上ニ重要ナ觀點ヲナスモノデアル。

濠洲ヲ經濟的構成ノ上ヨリ見レバ「濠洲ハ資源國デアル」ト云ヘル。

輸出額ノ五割三分ヲ占メテ居ル小麦ヲ中心トスル農産品ハ生産額ノ四割ヲ輸出シ總輸出額ノ二割五分ニ當ル(礦産物ハ産額ノ五割餘ヲ輸出シテ居ルガ比較的産額ハ少ナイ、酪農ト林漁業トハバター、チーズ等ヲ除ケバ國內消費ノ範圍ヲ出ナイ)コノ事ハ如何ニ資源ニ恵マレテ居ルカト謂フコトノ證左デアル。

地 勢



略 圖 符 號	1	2	3	4
東 部 高 地	5	6	7	8
中 央 濠 洲	10	11		
南 部 西	12	13	14	

濠洲ノ地理的區分ハ(括弧内ハ單位千平方哩)
 (イ) 太平洋岸地區(二四一) 西北海岸地區
 (四四五) カーペンタリア灣沿岸區(二三五) 大濠洲灣沿岸地區(四四六) 及
 ビ內陸(一五六七)ノ五區ニ分類スルモノ
 (ロ) 東部高地、中央低地、南濠高地及ビ西部臺地ノ四大地域別トスルモノトアリ
 大體後者ノ區分ニ從フモノ多キ爲メ此處ニモ後者ニヨリ細別スル。

略 圖 說 明

濠洲ノ素描

○ 東部高地 (四地區)

一、クインズランド高地

海岸ハ沈降性デ平野少ナク夏雨デ熱帶性ノ甘蔗、バナナヲ産シ、内部ニハ鑛山アリ、北部沿岸地域ハ高温多雨
濕潤氣候デ植物繁茂ス。

二、東南部海岸地方

ニューサウスウェールズ及ビクトリア州ノ沿岸地區ニシテ、温暖溫帶氣候、一般ニ牧羊地帯トシテ知ラレ、シ
ドニー附近ニハ炭田アリ、一般ニ農、製酪、果實ヲ産ス。

三、東南部高地

森林、鑛業、農業

四、タスマニア

冷涼溫帶氣候ニシテ可成リノ降雨量アリ、西部ニハ鑛山アリ、豐富ナ電力デ製鍊ス、羊毛、木材、果實ノ産ア
リ。

○ 中央低地 (五地區)

(イ) マレー、ダーリング低地

人工灌溉ニ依ル小麥ノ栽培地區、温暖乾燥氣候

五、金銅傾斜地

六、西部平野 (Riverina 羊毛、小麥)

七、マレー河口 (Wimmera 小麥)

(ロ) 大鑛井盆地

地下水ヲ利用スル牧羊地、温暖乾燥氣候

八、クインズランド傾斜地

九、エア湖地方

○ 南 濠 高地

十、ロフティ山及フリントース山脈地

十一、トーレンヌ地裂谷

○ 西部臺地 (三地區)

十二、熱帶部 (北部ハ高温濕潤氣候)

十三、西南部 地中海性氣候、小麦、柑橘、葡萄
十四、沙漠部（夏酷熱、冬極寒）

要スルニ沙漠地帯ヲ中心トシテ**マルガ**、**ブリガロー**、**マリ**（Mulgas, Brigalo, Mallee）等ノ矮樹ト疎ラニ生エル飼料用灌木ノ環狀地帯ガアリ、コノ地域ハ牧牛ニハ適スルガ、餘リ乾燥シ過ギテ農業ニハ適シナイ、次ノ周邊ハ**サヴァナ**（Savanna）地帯デ豊富ナ牧草ノ爲メ世界有數ノ放牧地帯ヲナシ、コノ外邊ハ農耕地デアル。沙漠ノ中心ヨリ遠ザカルニ從ツテ、樹木ハ漸次大キクナリ密生シテ硬質材ヲ豊富ニ供給スル森林地帯ニナル。最後ニ沿岸地方ニナツテ植物繁茂地ニ到リコノ地域ハ開耕サレテ酪農地トナル。

東部海岸沿ヒノ北部デハ熱帶性植物ト**ユーカリ**樹ノ混交樹林デ、**クインズランド**南端マデ續キ、ソレ以南ハ全部**ユーカリ**ブタス林デアル。

勿論降雨ノ多イ場所ニハ**シドニー**以南デモ椰子樹ノ茂ル所モアル、鑛脈ノ價值ハ埋藏スル鑛物ノ品種ニ依ル事勿論ナルガ、鐵道、溶劑、燃料及ビ水ノ供給ニ關聯シテ決定サレル、濠洲デハ全大陸及ビ**タスマニア**ニ鑛脈ガ散在スル。

老大ナ富鑛トシテハ西濠洲ノ**カルグルリー**ヲ中心トスル**金鑛**ト**ニューサウスウェールズ**ノ**ブロークンヒル**ノ銀鉛鑛ノ二ヶ所アリ、炭田ハ**シドニー**ヲ中心トスル南半球中屈指ノモノ一ヶ所アリ。

産 業

濠洲産業中主要産業ノ状態ニ就テ簡單ニ説明スル。

○ 小 麥

耕地面積ノ六一・四％
農產品價格ノ約四〇％
輸出割合ハ生産高ノ六〇／七〇％

濠洲小麦生産額（一九三六年）

	作付面積 エーカー	生産額 ブツセル
New South Wales	3,851,373	48,822,000
Victoria	2,323,753	37,552,062
Queensland	239,631	2,250,000
South Australia	2,989,490	31,615,744
Western Australia	2,540,696	23,315,417
Northern Territory	—	—
Canberra	1,619	36,216
	11,946,562	143,591,439
Tasmania	10,404	186,014
計	11,956,966	143,777,453

エーカー當リ 12.06 ブツセル

小麦地帯ハ二十吋乃至廿五吋降雨帯ニ殆ド一致シ最高氣温華氏八十度ガ有利栽培ノ限界デ南緯廿六度ヲ越エテ北部ニ及バズ。

主産地ハNSWノリヴァプールフレイン及ビリヴェリナ地方ウイクトリアノウ井メラ地方西濠洲ノ西南三角地帯デアル。

○砂糖(甘蔗、甜菜)

砂糖ノ生産ハ積極的ナ努力ノ結果、一九一一年クインズランドノ反別十四萬二千英反デアツタモノガ最近デハ左ノ通りニ發展シタ。

年	面積(英反)	甘蔗(噸)	糖(噸)
一九二五年	二八八、八七二	三、九六五、五八五	五一七、九七〇
一九三〇年	三一、六九四	三、六八八、八六九	五三五、六二四
一九三五年	三二二、四五七	四、四九八、八〇四	六四〇、五八九
一九三六年	三三四、九一〇	四、五〇〇、九〇七	六四六、五四一

甘蔗ハクインズランドノメリーボローヲ中心トシテ、ブンダベルグ、マツケイ及ビカイルンスニ於テ栽培サレNSWデハ東北部リスモア、クラフトンヲ中心トスル一小部分ニ耕地アルモ製酪業ニ變遷セルモノアリ、甘蔗ハ十分ナ濕氣ト冬季ノ平均氣温ガ華氏五十五度ヲ下ラズ、降霜懸念ノナイ事ガ經濟的限界トナツテ居ル、コノ條件ハクインズランドノ海岸地方ニ當ル。

○棉花

棉花栽培ハ現在クインズランドノ耕地面積五萬五千英反デアアルガ、栽培ニ適スルト謂ハレル地域ハ降雨量二〇吋線ノ外側ノ尨大ナ土地ガソレデアル。

○果物類

生産量ノ七五%ハ英本國、カナダ、新西蘭等英系向デソノ内五七%ハ英本國向トナツテ居ル。産地ハ東南部海岸地方、タスマニア西部三角地域

濠洲果實生産額

品名	一九三六年
リンゴ	9,771千ブツセル
アズナ	1,146 〳
バナナ	3,368 〳
オレンジ類	4,300 〳
梨	2,458 〳
桃	1,840 〳
ハインアツプル	1,368千ダース
葡萄酒	※ 17,728千ガロン
※ 輸出品	3,710千ガロン

濠洲ノ素描

○燕麥、玉蜀黍及ビ大麥

	一九三六年作付面積	一九二七—三六年平均
燕麥	一、五六四千英反	一五、三七五千ブツセル
玉蜀黍	二九八千々	七、七八五々
大麥	五六五千々	七、三三四々

産地ハウイクトリア、南濠洲及ビタスマニアデアル、但シ玉蜀黍ハタスマニアニハ産シナイ。

○米

一九二八年ニハ九十六萬ブツセルノ生産アリ略々國內需要ヲ充タス程度デアツタ。

○煙草

濠洲ノ土地ト氣候トハ煙草栽培ニ惠マレタ状態ト謂ハレ政府デモ栽培方法ノ改善ニ努力シテ居ル。

○羊毛

頭數ハ世界總數ノ約	一六・七%	
羊毛生産ハ世界總額ノ約	二五・〇%	
輸出割合ハ生産高ノ	九三・〇%	
英本國向ハ輸出高ノ	三三・〇%	
一九二二年	頭數	當時人口一人當リ
	八二、七〇一千頭	一四・七頭

一九三二年	一一一、七八三	一七・二
一九三四年	一一三、〇四八	一六・九
一九三五年	一〇八、八七六	一六・一

尙濠洲政府ハ一九四一—四二年度ノ濠洲羊毛生産見積リヲ百九十五萬五千俵ト發表シタ、而シテ一俵當リノ平均價格ハ三一磅八〇デアル。(同盟昭和十七年三月廿日報)

牧羊業ノ發展ト運輸問題トハ密接ナ關係ガアル故ニ鐵道其他ノ運送手段並ニ施設ニ就テハ充分ナ考慮ガ拂ハレテ居ル。牧羊業ハ羊毛ノ供給ノ外羊肉モ供給スル、牧羊ノ主要地域ハNSWノ西南部(リウエリナ)溫暖乾燥氣候地一體ニシテ降雨量ガ十吋—廿吋線間ノ乾燥地帯ニ最モ多ククインスランド南部、ウイクトリア北部、南濠洲及ビ西濠洲ノ三角地帯等ニ飼養サレル。

○牛 頭數ハ年毎ニ増加ノ傾向ガアル。

一九二〇年	一三、四九九、七三七頭
一九三五年	一四、〇四八、六七一頭

牧牛ハ濠洲ノ到ル所デ見ラレルガ、主要地區ハクインスランド及ビNSWノ山岳地帯ノ東部域デ大體三十吋降雨帶(時ニハ不規則的ニソノ兩側)ニ殆ド一致シ羊ヨリモ耐熱性ガ強イカラカーベントリア灣ノ西南部ニ迄及ンデ居ル、西濠洲ノキンバレー地方ニハ良種ノモノガ飼養サレル。

○馬

一九三五年

一、七六四、四三〇頭

九〇

毎年四千乃至五千頭ノ馬ガ印度へ輸出サレテ居ル。

○製酪業及ビ冷凍肉

製酪及冷凍肉ハ濠洲ノ牧農業ガ粗放的經營ヨリ漸次發展シ來リ政府モ亦種々ノ補助政策ニヨリ助成シテ居ル新興生産品デアル。

濠洲バター生産額 (單位千封度)

一九二二年	二三四、九九五
一九三〇年	三五〇、四〇五
一九三五年	四三三、七二二

濠洲チーズ生産額 (單位千封度)

一九二二年	二三、七一
一九三〇年	三三、一〇〇
一九三五年	三八、五九九

NSWノイラワラ附近、クインズランドノダーリングダウン地區ハ主要地域デアル、又西濠洲ノ西南三角地帯及ビタスマニアノ東部及ビ北部モ製産地トシテ知らレテ居ル。

酪農品中バターハ總生産額ノ五〇%ヲ占メ英國へノ輸出ハ總輸出ノ九〇%以上ニナル、チーズ、卵、家禽、ハム等ガアルガ生産額モ僅少デアル。

肉類ノ年産ハ相當アルガ大部分ハ國內消費テ輸出ハ殆ド英國向デアル。
皮革類ハ可成リノ輸出ガアリ、牛皮革及ビ兔皮ハアメリカ、羊毛付皮革ハフランス向トナツテ居ル。

○金

金生産ハ一時退潮ヲ示シタガ一九三〇年來金塊價格ノ高騰ニ因リ再ビ活氣ヲ呈スル様ニナツタ、金産地ハ各地ニ散在スルガ(中央低地區ハ地質學ヨリ觀テ不毛ノ地デアル)ウイクトリアノ高地、西濠洲ノ各地殊ニカルグルリー、クールガリー地方及ビ沙漠ノ外輪地方即チホールズクリークヲ中心トスルキンバレー鑛、メーベルバーヲ中心トスルピルバラ鑛及ビマーチン鑛ガアル。

東亞戰爭ノ進展ニ伴ヒ重要戰略資材ノ供給ヲ斷絶サレタ結果、濠洲政府ハ金採掘ヲ停止シテコレニ從事スル鑛夫ヲ國內軍需工業ニ必須ノ諸原鑛採掘ニ振向ケルコトニナツタ模様デアル。

コレニヨリ最モ大キイ影響ヲ被ムルノハ西濠洲(金産ノ三分ノ二ヲ占ム)デアル。

註・濠洲ノ錫産額ハ三千五百噸

タンクステン原鑛ハ千二百噸デアル。

鐵ハ一九三五年ニ五十七萬二千噸デ主生産地ハNSW及ビタスマニアデアル。

銅ハタスマニアガ最も多クインスランド之ニ次グ、一九三五年ノ總生産ハ一萬一千噸デアツタ。
錫ハ産額逐年増加ヲ示シ主産地ハNSW及タスマニア、亞鉛ハ一九三五年ニ百三十二萬八千噸ノ産出アリ世界産額ノ約九%デクインスランド及ビタスマニアガ主産地デアアル。

銀ノ生産モ一九三二年以來急激ニ増加シタ、一九三五年ニハ一八〇、九五三噸ニ達シテ居ル。主要産地ハNSW及ビクインスランドデアアル。

石炭ハ一九一二年以降俄然産額ヲ増シ一九三五年ニハ壹千萬噸ニ達シタ、世界生産ノ約一%ニ當ル。大部分ハ國內消費ニ充テ、居リ主産地ハNSWデ全産額ノ六八%ヲ占メ就中シドニー附近ハ中心地テ南半球ノ炭田中著名ナモノデアアル。

○林 業 森林面積一、九五〇萬英反(三四、〇六九平方哩)

全面積ノ一、〇二%

○水 産 漁業ニハ見ルベキモノガ無い。

東北部海岸、北部地方、西濠洲北部海岸等ノ眞珠貝ガアル。

貿易

濠洲經濟ノ本質ガ未ダ農業國テ原始産業ガ六割五分強テ製造工業ハ三割五分ニ過ギズ、コノ工業生産部門モ手工業

デ全ク國內消費ノ一部ニ販路ヲ維持シテ止ルニ反シ、原始産業部門ハ海外輸出ガ目標デアアル、故ニ濠洲ノ經濟ハ土地生産物ヲ輸出シテ織物、雜貨、機械、紙類、肥料、化學藥品等食料以外ノ生活必需品ヲ海外ヨリ輸入スルコトデ成リ立ツテキル。

濠洲輸出品目ノ大宗ハ羊毛デ其レニ小麥、バター、肉類等ヲ入レテ全輸出ノ五〇%ヲ占メチーズ、果實、砂糖、皮革、木材等農牧生産品ヲ含メルト九〇・四五%トナリ鑛業生産品ハ全輸出ノ九%ニ當ル。

英濠貿易ハ濠洲貿易中五〇%以上ヲ占メ貿易品目ヲ研究セバ相互如何ニ切實ニ依存シ居ルカ、判明スル。

即チ英本國ノ原料供給地トシテノ濠洲デアリ生活程度高キ濠洲人ノ消費材供給地トシテノ英國デアツテ緊密ナル依存關係ハ兩國間有無融通性ノ存在ヲ意味スル。

日濠貿易ハ一般有色人種ニ法律上人爲的ニ土地及ビ鑛業ノ所有權ノ享有ヲ禁止シ或ハ關稅障壁ヲ設定スル等ノ爲メ邦人ノ投資及ビ利權ノ存在スルモノナク、單ニ本邦ノ産業生産部門トシテノ羊毛工業、製粉工業等ノ原料供給地トシテノ存在デアリ、濠洲經濟ヨリ本邦經濟ヲ看ル時ハ同國製造工業トノ競争關係ハナイガ英濠關係ニ基ク一般の競争ノ存在ヨリ本邦纖維製品ノ消費市場トシテハ勢ヒ低位ニ置カレル情勢ニアル、尙濠洲ガ豊富ナ資源ヲ保有シ亞細亞ノ一隅ニ存在シ乍ラ英國ノ衣糧庫トシテノ機能シカ發揮シ得ナイノハ白濠主義ノ露レデアアル。

欠

○ 濠洲ノ對外貿易ニ占メル英國ノ地位

	輸入	輸出
對 英 本 國	四一%	五四%
對 東 亞 諸 國	二〇%	一八%
對 其 他 國	三九%	三七%

欠

濠洲州別耕地面積

1935—36年

(單位英畝)

New South Wales	5,735,681
Victoria	4,438,761
Queensland	1,334,469
South Australia	4,463,163
Western Australia	3,754,158
North m Territory	1,070
Canberra	4,430
小計	19,731,732
Tasmania	242,189
計	19,973,921

濠洲ノ都市ト人口

世界順位	都市名	人口	備考
	聯邦總人口	6,997千人	東京市 6,779
24	Sydney	1,280	名古屋 1,328
37	Melbourne	1,024	京都 1,090
173	Brisbane	318	廣島 344
174	Adelaide	313	
	Canberra	7	

濠洲ノ土人分布

	土人	混血土人
New South Wales	965人	5,860人
Western Australia	23,000	2,590
South Australia	2,150	1,150
Victoria	55	505
Queensland	13,500	4,210
Northern Territory	20,250	780
計	59,920	15,095

職業別人口表

(土人ヲ含マズ、單位千人)

	總人口	有業者	無業者
オーストラリア聯邦 (昭和八年)	6,630	2,697	3,933
		百分比	
十四歳以下	1,822		27
十五歳—五九歳	4,134		62
六十歳以上	656		10
不詳	19		—
農業及林業	574	{ 牧 547.8 林 26.1	
水産業	15		
鑛業	69		
工業	866	{ 工業 511.5 建築 107.4	道路 217.6 其他 29.6
商業	451		
交通業	224		
公務自由業	256		
家事使用人	242		
新西蘭 (昭和十一年)	總人口 1,492		
		百分比	
十四歳以下	380		26
十五—五九歳	954		64
六十歳以上	156		10
不詳	2		—

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
平均氣温(攝氏)	22.0	21.7	20.7	18.1	14.7	12.4	11.3	12.7	15.0	17.5	19.5	21.2	17.2
シドニー	25.2	25.5	24.8	23.4	21.8	20.7	20.1	20.5	20.8	21.4	22.9	24.4	22.6
リオデジャネイロ	4.2	4.4	7.5	13.3	17.6	21.8	26.1	27.3	23.4	17.2	11.5	6.6	15.1
大 阪													
平均湿度(百分率)	70	72	75	77	78	78	77	74	69	69	67	67	78
シドニー	78	78	80	80	79	79	77	76	78	76	78	78	78
リオデジャネイロ	71	70	71	72	73	77	77	76	75	76	75	72	74
大 阪													
平均一ヶ月間ノ降雨量(ミリ)	93	113	129	139	131	130	122	80	73	81	72	71	1.232
シドニー	123	113	138	104	80	57	43	46	66	84	104	134	1.091
リオデジャネイロ	47	59	98	136	129	193	148	104	183	126	77	49	1.348
大 阪													

家畜及家禽 (一九三八年 單位千頭)

濠洲聯邦 一一三、三三三

新西蘭 三二、三七九

羊 一六、五一〇千羽

主要生産品産額 (一九三九年)

品目	世界總額	オーストラリア	新西蘭	備考
金	1,227,424 兩	50,499 (第五位)	5,352	
銀	8,053,248 兩	464,813 (第五位)	11,664	
銅	2,161,522 兩	23,587		
石炭 (一九三八年)	1,225,000 千兩	11,553	873	
鹽 (一九三七年)	37,000 千兩	125		泰 156
小麥 (一九三九年)	198,676,463 兩	5,769,600 (第八位)	245,000	
甘蔗糖 (一九三九年)	18,733,065 兩	860,000		比布哇 923,300 807,200
棉花	6,190,000 兩	3,100		イラク 2,600
羊毛 (一九三八年)	1,811,000 兩	446,800 (第一位)	148,600	
木材パルプ (一九三八年)	21,716 兩	383	242	
バター (一九三八年)	3,450,000 千兩	208,000 (第三位)		

(括弧内ハ世界生産順位)

家畜馬牛 一一、八六二
一、七四二
一、一〇〇
一六、五一〇千羽

禽 四、五〇六

濠洲產業別生產額 (單位百萬磅)

農牧酪林鑛工總	一九三三—三四年	一九二七—二八年
農業	六八・六	八四・三
畜業	七四・六	一二四・六
酪業	四四・八	五〇・三
林業	一〇・九	一一・二
鑛業	一九・九	二二・〇
工業	一三七・三	一五八・六
總額	三五六・一	四五二・九

濠洲主要農產物產額

小燕秣玉大甘馬葡萄甜	一九三〇年	一九三六年
麥 (千蒲ッセル)	一二六、八八四	一四四、二一八
麥 (千蒲ッセル)	一四、四二四	一八、七二一
麥 (千噸)	二、七二五	三、四九八
黍 (千蒲ッセル)	七、九四六	七、四六八
麥 (千噸)	七、四二九	八、四一三
蔗 (千噸)	五三八	六四七
薯 (千噸)	三四二	三三三
葡萄 (千噸)	三八六	三六四
甜菜 (千噸)	五、四	五、一

濠洲重要農產物輸出狀況 (單位千噸)

羊毛	一九三八年	一九三九年
脂	三五八、〇	二九二、七
洗上及トツブ	二七、三	二八、二
小麥	二、五四〇、九 (一九・五)	一、六五二、四 (一〇・六)
巴麥	一〇三、五 (一一・六)	一一三、二
羊肉	九八、一	一一〇、六
牛肉	一三一、八	一四六、四
小麥粉	五八八、六 (二四・九)	六六九、八 (二三・七)

(括弧内ハ對世界總輸出額比率%)

濠洲小麥輸出額 (單位蒲ッセル)

輸出總額	一九三〇年
一九三五—三六年	七六、九九三、一三三
一九三四—三五年	七五、九五九、六九〇
英國	一九三、六
日本	四六、七七六、〇四九
意大利	一、七三六、六六三
日本	一一、〇四三、六一〇
佛蘭西	四〇、六一三
濠洲ノ統計	一〇三

南阿	三二六、九〇五	一、五四〇、四八二
白耳	一、四四六、七二五	四〇八、九〇〇
埃及	五、〇五二、七九〇	一、一七八、二三〇
英領	一一、〇四三、六一〇	四九〇、三五八
其他	一二、九〇九、四〇八	九二四、九五三
合計		一〇四

濠洲貿易額 (單位 千英磅)

一九二八年	輸 出	一一二、一七六	輸 入	一一〇、二九四	差 引	一、八八二
一九三〇年		七三、七二八		七一、一〇七		二、六二一
一九三五年		七六、三〇三		一一三、一九六	入超	四一、四六七
一九四〇年		一二五、八四〇		一四八、一〇〇		二二、二五〇

濠洲貿易主要品目 (一九三八—三九年度)

重要輸出商品	重要輸入商品
羊毛	糖
小麥	實
小麥粉	茶
巴麥	棉布及麻布
肉類	絹布及人絹布
皮類	石油

砂	三、三四二
果	四、九二四
子	八五九
金	一一、九六七
鉛	三、四二七
茶	二、四八三
絹布及人絹布	四、六六二
石油	二、六二四
電氣機械等	五、六五九
動力機械	三、六七九
其他機械	二、四八三
鐵鋼	一、三三三
自動車部分	二、六一四
紙類	六、七六一
化學藥品	二、七一〇
藥品	五、六〇二

濠洲貿易主要國別表 (單位 千英磅)

日本	輸 出	一九三八—三九年度	三、八九二	輸 入	一九三八—三九年度	四、〇九三
日						一〇五

輸出品目	昭和十一年	昭和十二年
香	三三八〇	一〇六
馬	一、五二九	九〇二
支	二、三三四	四六二
滿	五一	
蘭	一、〇九八	七、二二〇
比	四三九	一二一
印	一、四二四	二、八七〇
新	五、三四五	一、七七〇
太	三〇九	一、四四二
其他共東亞合計	一七、二三八	一九、六二〇
英	五三、三八〇	四〇、四二〇
佛	七、五〇三	四、一三一
獨	二、一二二	
伊	九六九	
米	二、八九一	一四、六四七
力		七、七二四
日本對濠洲貿易額 (單位千圓)	輸 入 七二、〇八〇 六八、七六三	輸 出 一六五、二五二 一八一、九一四

輸入品目	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年
香	七四、七九三	二三五、一二八			
馬	六四、四六二	一九七、七五八			
支	五一、四一六	二〇四、五八六			
滿	三六、八九五	一三四、二七七			
蘭	一八、四〇五	一一三、三三七			
比	二五、四八六	九四、二一五			
印					
新					
太					
其他共東亞合計					
英					
佛					
獨					
伊					
米					
力					

英國全輸入額
=對スル比率
三〇・九%

英國全輸出額
=對スル比率
一一・四%

輸入品目	金額	英國全輸入額 =對スル比率
小麥	一一、九三六	三〇・九%
小麥製品	一、四二〇	三五・七%
食用穀物及製品	一四、三九八	一九・三%
肉類	一一、〇二四	一二・一%
羊毛	九、六三〇	一八・九%
羊毛製品	一八、七六一	四五・六%
ガラス製品及陶器	一、一〇四	一一・四%
鐵及製品	四、四九八	一〇・八%
金製品	一、二二〇	一二・四%
電機製品	二、三六二	一七・五%
機械類	四、八一六	一八・三%
濠洲ノ統計		一〇七

濠洲ノ統計

鐵

道

綿 布
人絹 製品
化學 藥品等
紙 類
自動車 部分品

三、九二二
一、六三六
二、〇五四
一、五五九
二、〇八四

一一・二％
二二・〇％
九・三％
二二・四％
五一・七％

一〇八

面積百方籽=付

人口一萬人=付

自

動 車

オーストラリヤ
新 西 蘭
カ ナ ダ
ア メ リ カ

四三、七五二籽
五、三四三％
七、五一一％
四〇二、〇五六％

〇・六籽
二・〇％
〇・七％
五・一％

六三・一籽
三三・三％
六三・八％
三〇・九％

總 數

乘 用 車

積 荷 車

一臺= 付人口

オーストラリヤ
新 西 蘭
カ ナ ダ
ア メ リ カ

八五四、一五〇
二七八、二一四
一、四二〇、九二四
三〇、一八〇、三二四

六一〇、七五〇
二二二、六二六
一、一八二、五六〇
二五、八〇四、三四〇

二四三、四〇〇
五五、五八八
二三八、三六四
四、三七五、八八四

四 八 六 四

昭和十七年四月二十日印刷
昭和十七年四月廿五日發行

【非賣品】

大阪市北區中之島二丁目十地
日本綿花株式會社內

發行人 渡邊一郎

大阪市西淀川區海老江上二丁目三七

印刷所 木下印刷所

大阪市西淀川區海老江上二丁目三七

發行所 柴崎印刷所



製本控

933 函 149 號 年 月 日

馬來·蘭印 濠州

冊

備考

933
E
149



終